

概要版

行田市民意識調査 報告書

平成21年9月

行田市

はじめに



平成21年9月
行田市長 工藤正司

近年、地方分権の進展や少子高齢社会の進行、深刻化する環境問題、さらには景気の急激な後退等による社会状況の変化により、市民の意識や市政に対する意見は多様化・複雑化してきております。

このような状況の中、行田市は、今年、市制施行60周年を迎えております。この大きな節目の年を機に、元気な行田をさらに推進し、輝かしい未来に向けて新たにスタートするためには、社会情勢の動向や市民の意向を迅速かつ的確に把握することが重要であると考えます。

こうしたことから、市では、20歳以上の市民3,000人の方々に市政全般にわたる考えを広くお聴きするため、市民意識調査を実施いたしました。この調査結果は、今後の市政運営に反映させるとともに、現在、策定に入っている第5次行田市総合振興計画の基礎資料として活用してまいりたいと考えております。

今回の調査にご協力をいただいた多くの市民の皆様から厚くお礼申し上げますとともに、市政に対するなお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

目次

I. 調査の概要	1
II. 調査の結果	1
1. まちの暮らしやすさについて	1
(1) まちの住み心地	1
(2) 住みよい理由	2
(3) 住みにくい理由	2
(4) 今後の居留意向	3
(5) まちの生活環境や施設について	3
(6) 行政に力をいれてほしいもの	7
(7) 行田市の将来像	7
2. 地域との関わりについて	8
(1) 地域活動への参加意向	8
(2) 参加したい地域活動	8
(3) ボランティア活動への参加状況	9
(4) 参加しているボランティア活動	9
(5) 参加したいが機会がない理由	10
3. 今後のまちづくりについて	10
(1) 少子化社会に対応するために重要なこと	10
(2) 高齢化社会に対応するために重要なこと	11
(3) 行田市の環境の良さ	12
(4) 環境保全・改善のために強化すべき活動	13
(5) 市のごみ収集体制について	13
(6) 健康についてのイメージ	15
(7) 健康づくりのために重要なこと	15
(8) 歴史を生かした魅力ある景観づくりに重要なこと	16
(9) 商業や産業の振興に重要なこと	16
(10) 公園・緑地の維持管理について	17
(11) 詳しく知りたい情報	17
(12) インターネットが利用できるパソコンの保有状況	18
(13) インターネットを利用した国・県・市への申請届出の認知	18
(14) インターネットを使って利用したい市のサービスの有無	18
(15) インターネットを使って利用したい市のサービス	19
(16) 市のホームページの閲覧状況	19
(17) 市のホームページに掲載してほしい情報	20
(18) 市内循環バスの利用状況	20
(19) 市内循環バスの利用目的	21
(20) 市内循環バスの今後の利用条件	21
(21) 望ましい国際交流の促進方法	22
(22) 力を入れるべき教育	22
(23) 防災体制として重要なこと	23

(24) ものつくり大学施設の見学・利用状況.....	23
(25) ものつくり大学に期待すること	24
(26) 市民の通勤・通学、買物等の主な行き先.....	25
4. 男女平等意識について	26
(1) 男女の地位の平等感について	26
(2) 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方について.....	27
(3) 家庭での作業分担	27
(4) 就業状況	28
(5) 職場での男女間の差	28
(6) 社会活動への参加状況	29
(7) 女性が政策立案や方針決定をする場に進出するために必要なこと.....	29
(8) DV（ドメスティックバイオレンス）の有無について.....	30
(9) DV（ドメスティックバイオレンス）についての相談の有無.....	30
(10) DV（ドメスティックバイオレンス）についての相談相手.....	31
(11) DV（ドメスティックバイオレンス）について相談できなかった理由.....	31
(12) 「ワーク・ライフ・バランス」の認知状況.....	32
(13) 男女共同参画社会の実現のために重要なこと.....	32
(14) 「VIVAぎょうだ」に期待すること	33
5. 市政や市役所について	33
(1) 行政への信頼度	33
(2) 各種施策の実行能力	34
(3) 市役所の利用しやすさ	34
(4) 窓口の対応	34
(5) 市民の声を反映しやすくするために必要なこと.....	35
(6) 市政への参加について	35
(7) 今後の行政運営について望ましいと思う方向.....	36
(8) 古代蓮（行田蓮）を第2の市の花にすることについて.....	36

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、まちづくりに取り組む上で、市民が市政に対してどのような意識をもっているか市政全般にわたる考えを広く聞き、その意向を行政に反映することを目的として実施したものである。

2. 調査の設計

- (1)調査対象 市内に在住する満 20 歳以上の男女
- (2)標本数 3,000 人（無作為抽出）
- (3)調査方法 調査票を郵送の上、記入後に返送（郵送法）
- (4)調査期間 平成 21 年 7 月 8 日～7 月 22 日
- (5)調査地区 市内全域

3. 回収の結果

- (1)配布票数 3,000 票
- (2)有効票数 1,675 票（55.83%）

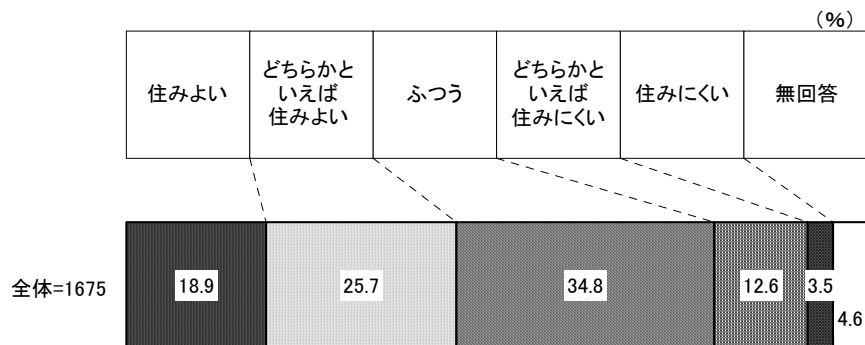
II. 調査の結果

1. まちの暮らしやすさについて

(1) まちの住み心地

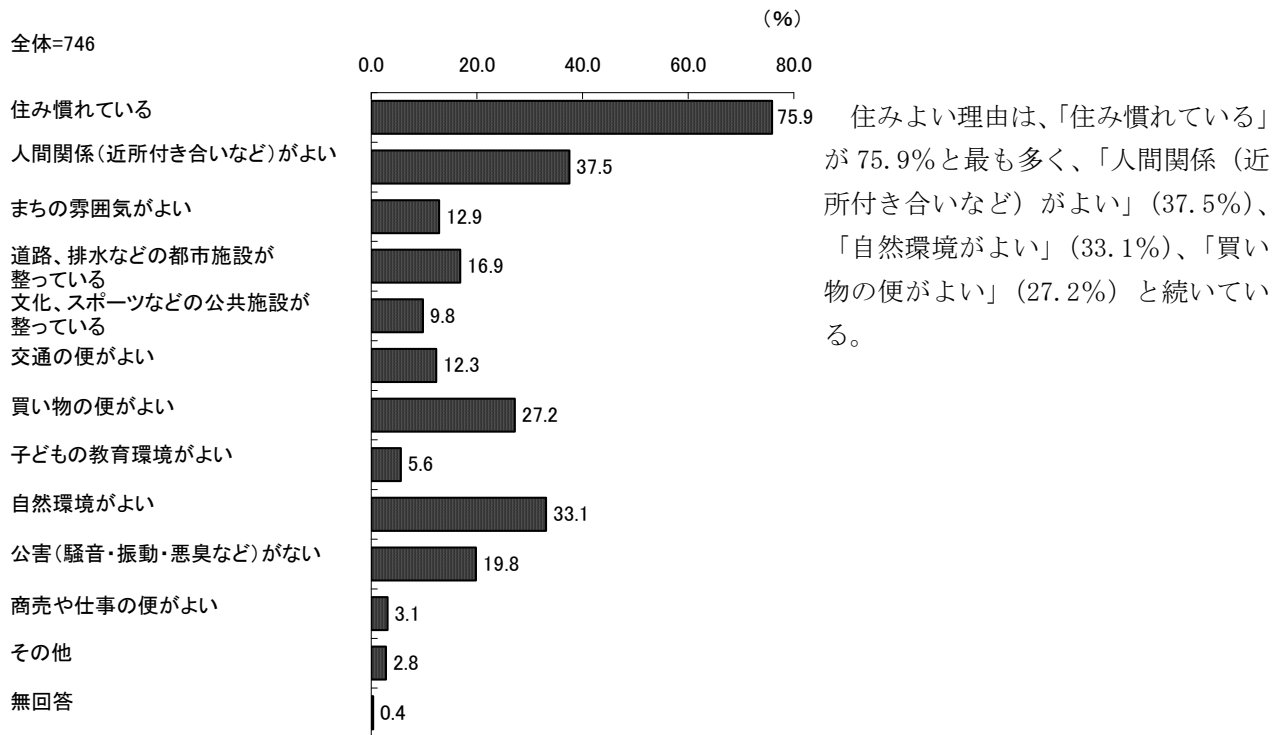
◆肯定派 44.6%、**「ふつう」** 34.8%、否定派 16.1%

まちの住み心地は、「ふつう」が 34.8%と最も多く、「どちらかといえば住みよい」25.7%、「住みよい」18.9%、「どちらかといえば住みにくい」12.6%、「住みにくい」3.5%となっている。「住みよい」、「どちらかといえば住みよい」と回答した『肯定派』が 44.6%と、『否定派』（「住みにくい」、「どちらかといえば住みにくい」と回答した人の割合）の 16.1%より 28.5 ポイント上回っている。



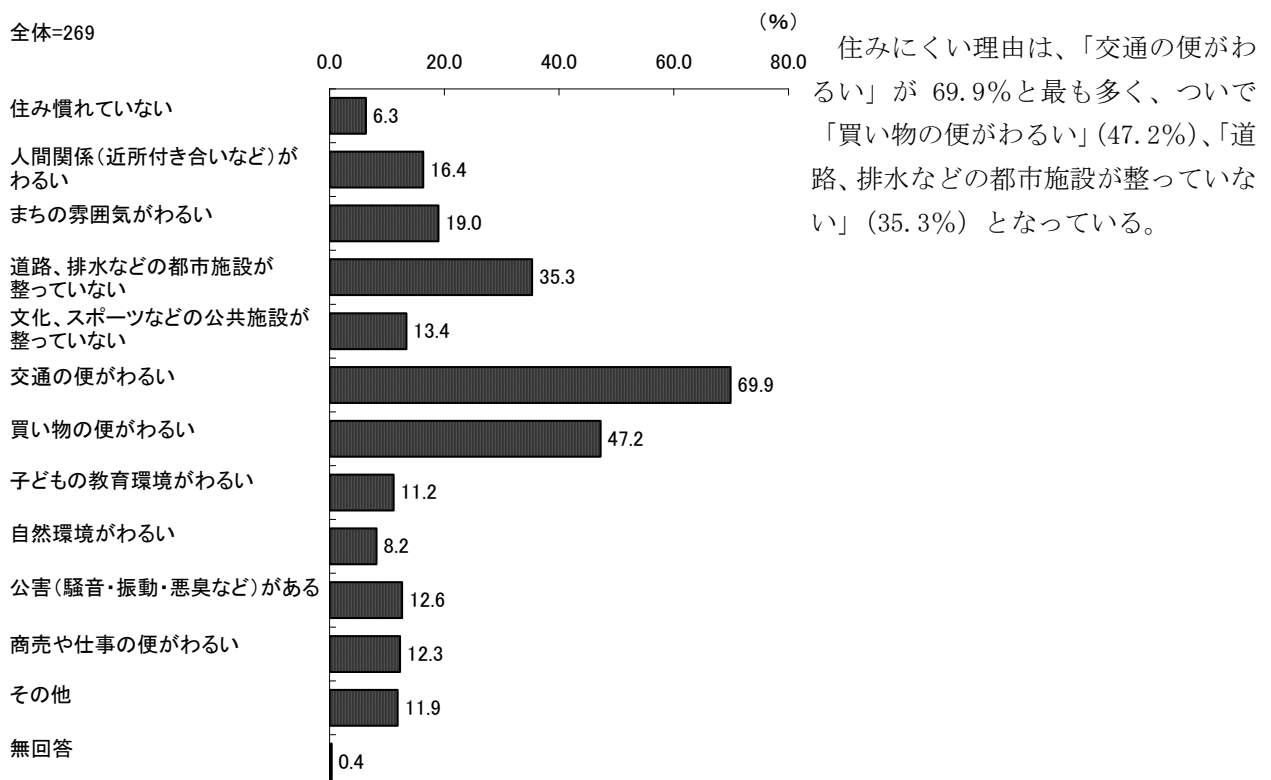
(2) 住みよい理由 (複数回答)

◆75.9%と多数の人が「住み慣れている」としている



(3) 住みにくい理由 (複数回答)

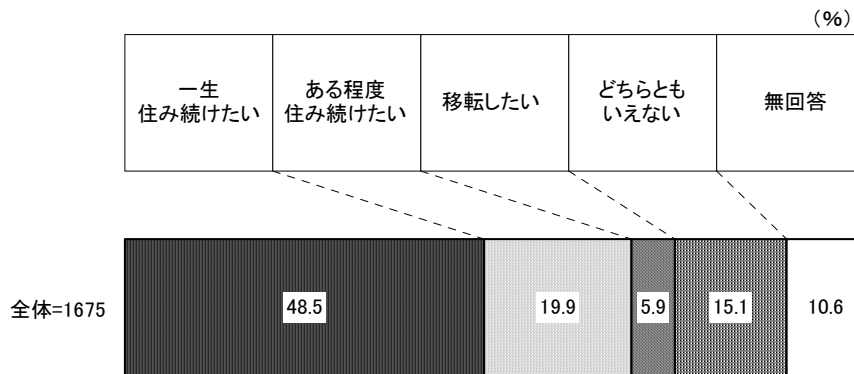
◆交通の便・買い物の便のわるさ、都市施設の未整備など利便性のわるさに集中



(4) 今後の居留意向

◆「一生住み続けたい」は約半数

今後の居留意向は、「一生住み続けたい」が48.5%と最も多く、「ある程度住み続けたい」19.9%、「どちらともいえない」15.1%、「移転したい」5.9%となっている。「一生住み続けたい」と「ある程度住み続けたい」をあわせた『居住継続派』は68.4%となる。



(5) まちの生活環境や施設について

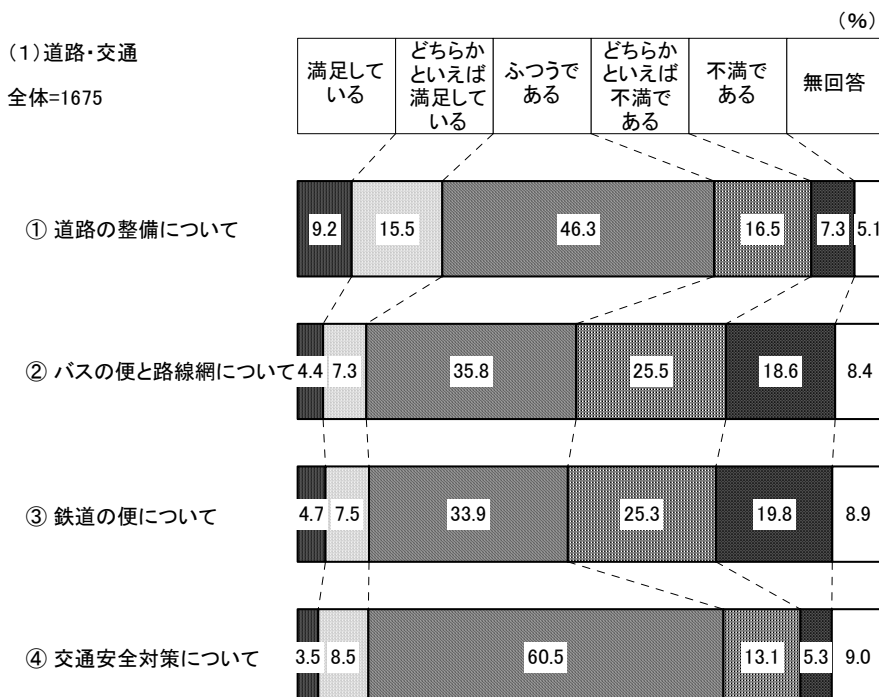
①道路・交通について

◆「バスの便と路線網」・「鉄道の便」は『不満足層』が半数近くを占める

道路・交通については、「道路の整備について」で、『満足層』（「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した人の割合）が24.7%と、他の項目に比べ高くなっているが、『不満足層』（「不満である」と「どちらかといえば不満である」と回答した人の割合）も23.8%と『満足層』とほぼ同様の数字となっている。

一方、「バスの便と路線網について」と「鉄道の便について」は、『不満足層』が半数近くを占め、強い不満がうかがえる。

「交通安全対策について」は、『ふつうである』が60.5%を占めているが、『不満足層』も18.4%と少なくない。



②生活環境について

◆「ごみの収集処理」は『満足層』が47.9%と高く、「子どもの遊び場」は『不満足層』が31.2%と高い

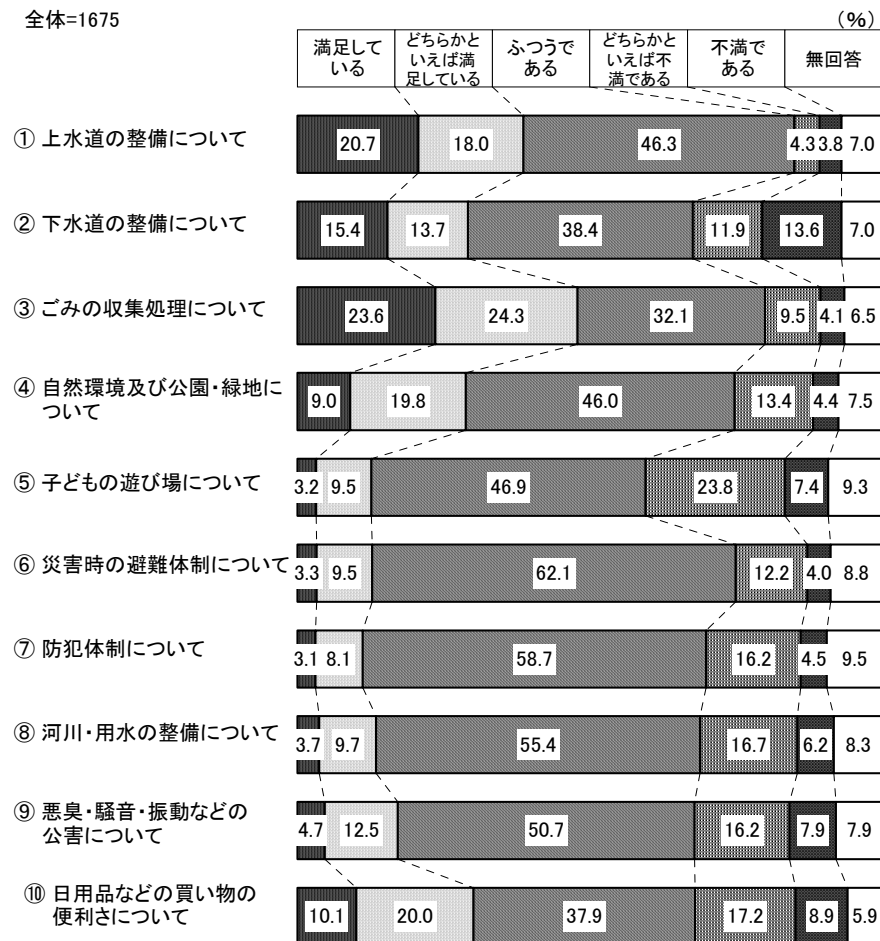
生活環境については、『満足層』が最も多いのが「ごみの収集処理について」(47.9%)であり、ついで「上水道の整備について」(38.7%)となっている。この2項目については、『不満足層』は1割前後にとどまり、比較的良好な評価を得ているといえる。

「日用品などの買い物の便利さについて」「下水道の整備について」「自然環境及び公園・緑地について」については『満足層』は約3割みられるものの、『不満足層』も2割前後あり、評価は分かれている。

これに対し、『不満足層』が最も多いのは「子どもの遊び場について」(31.2%)となっている。また、「災害時の避難体制について」「防犯体制について」「河川・用水の整備について」「悪臭・騒音・振動などの公害について」の4項目については『不満足層』が2割前後と約5人に1人の割合となっている。

(2)生活環境

全体=1675



③教育・文化・コミュニティについて

◆「観光施設」に対する『不満足層』は24.8%と『満足層』13.3%を上回る

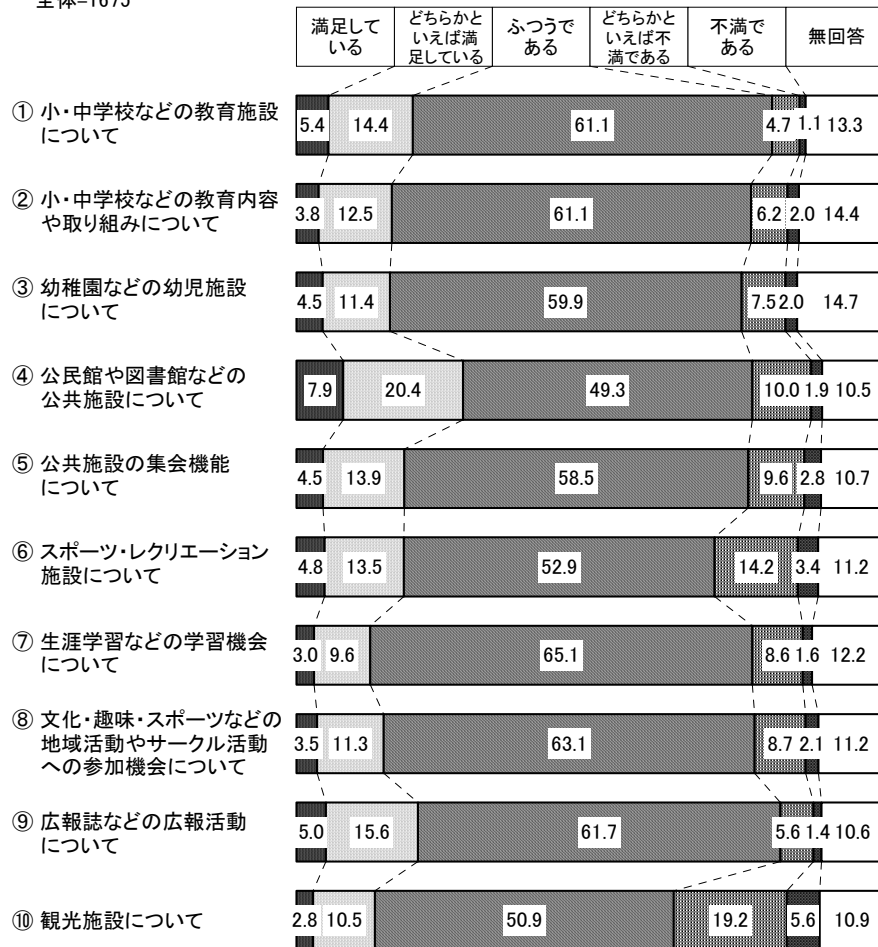
教育・文化・コミュニティについては、どの項目も「ふつうである」との評価が多数を占めている。『満足層』が『不満足層』を10%前後上回る項目としては、「小・中学校などの教育施設について」「公民館や図書館などの公共施設について」「広報誌などの広報活動について」の3項目があげられている。

一方、「観光施設について」は『満足層』が13.3%なのに対し、『不満足層』が24.8%と『満足層』を上回り、厳しい評価となっている。

(3)教育・文化・コミュニティ

全体=1675

(%)



④保健・医療・福祉について

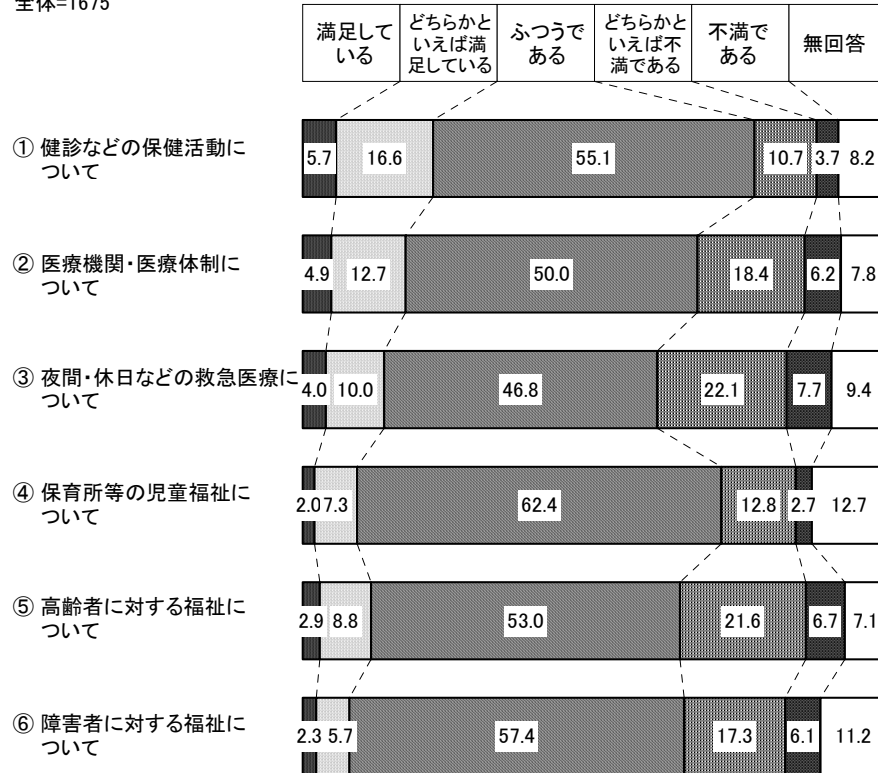
◆「ふつうである」との評価が半数前後を占めるが、医療・福祉分野では『不満足層』が目立っている

保健・医療・福祉についての中で、「健診などの保健活動について」は、『満足層』22.3%に対し、『不満足層』は14.4%と『満足層』が上回っているが、他の医療・福祉分野の項目は『不満足層』が『満足層』をかなり大きく上回り、厳しい評価がなされている。

(4)保健・医療・福祉

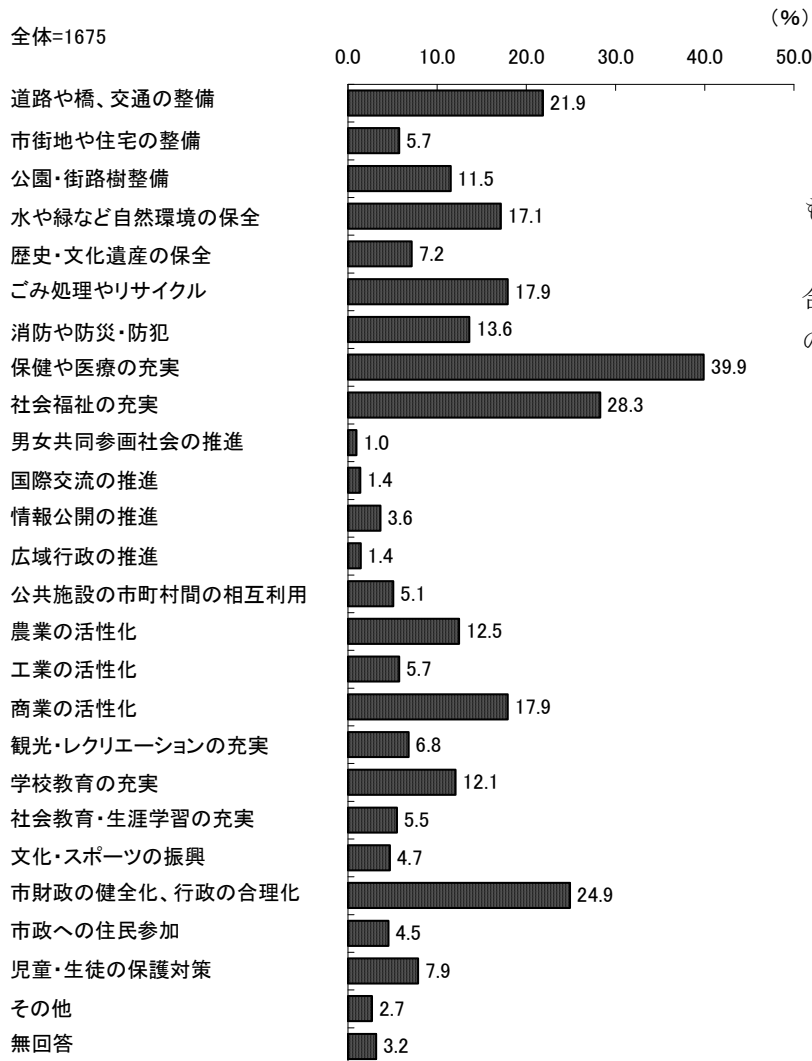
全体=1675

(%)



(6) 行政に力をいれてほしいもの（複数回答）

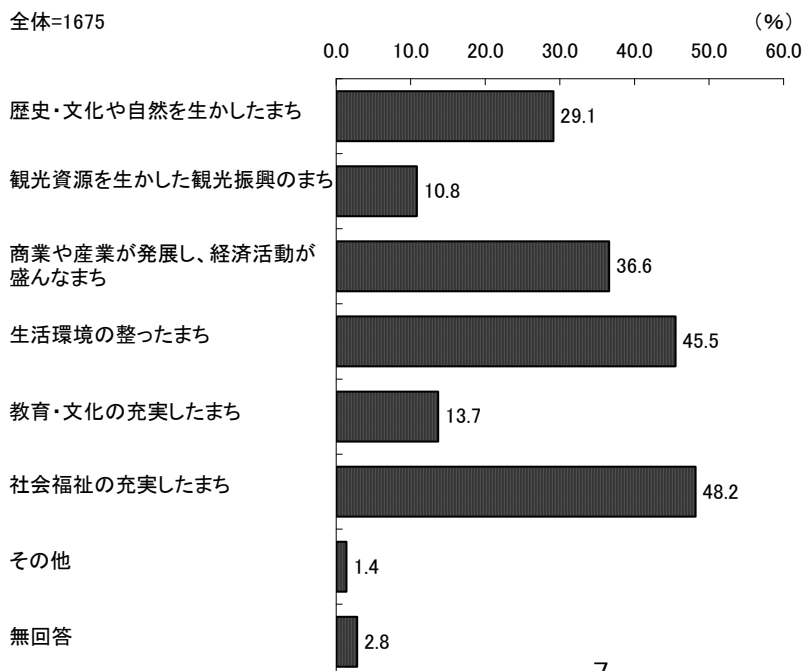
◆保健・医療・社会福祉の充実を求める声が多く、続いて道路交通の整備、行政の合理化などが続いている



行政に力をいれてほしいものは、「保健や医療の充実」が 39.9%と最も多く、ついで「社会福祉の充実」(28.3%)、「市財政の健全化、行政の合理化」(24.9%)、「道路や橋、交通の整備」(21.9%)が続いている。

(7) 行田市の将来像（複数回答）

◆「社会福祉の充実」と「生活環境の整ったまち」を求める人が半数近くを占める



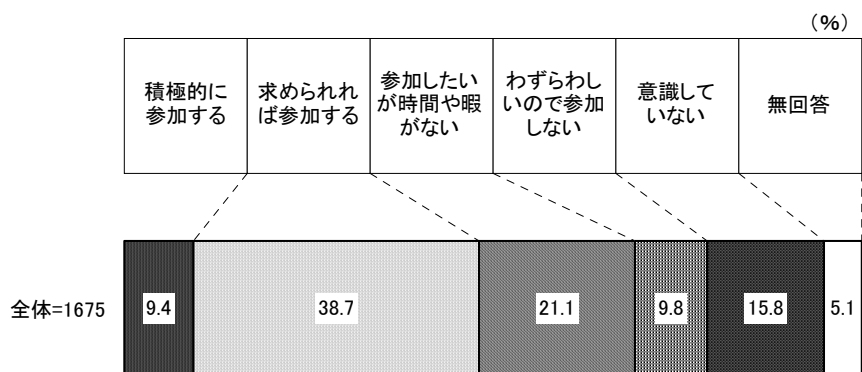
行田市の将来像は、「社会福祉の充実したまち」(48.2%)と「生活環境の整ったまち」(45.5%)の2つをあげる人が半数近くを占めた。ついで、「商業や産業が発展し、経済活動が盛んなまち」(36.6%)、「歴史・文化や自然を生かしたまち」(29.1%)となっている。

2. 地域との関わりについて

(1) 地域活動への参加意向

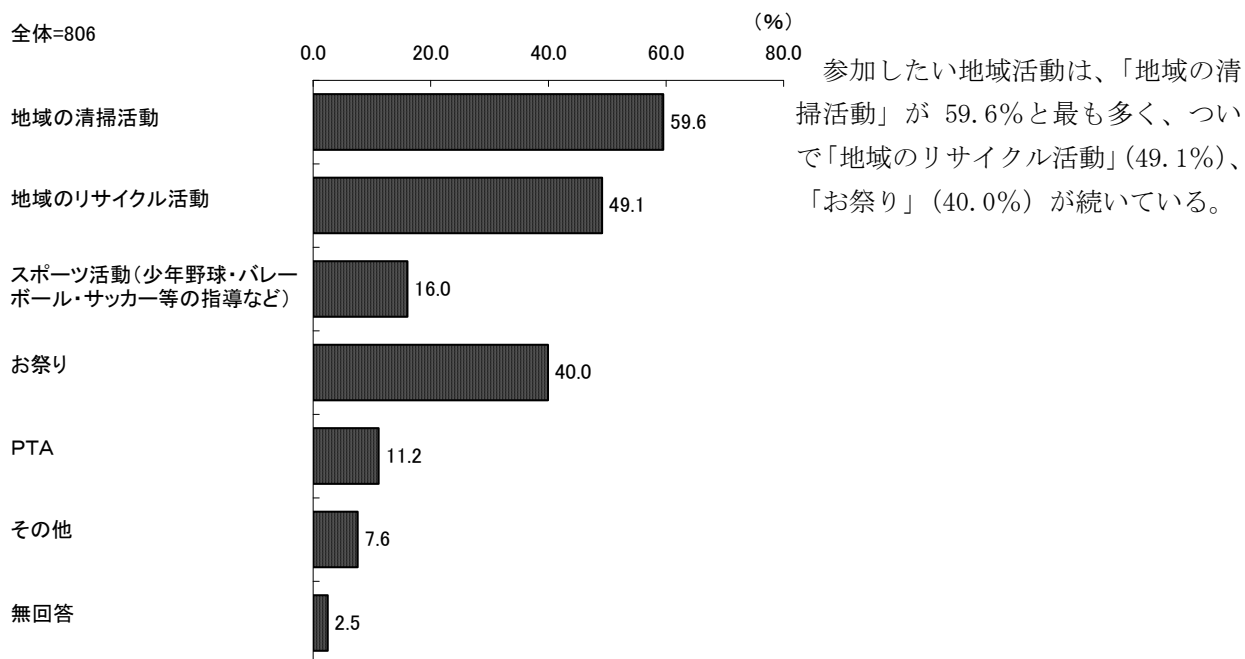
◆「求められれば参加する」が38.7%、「参加したいが時間や暇がない」が21.1%

地域活動への参加意向は、「求められれば参加する」が38.7%と最も多く、「参加したいが時間や暇がない」21.1%、「意識していない」15.8%、「わずらわしいので参加しない」9.8%、「積極的に参加する」9.4%となっている。参加意思を示した（「積極的に参加する」、「求められれば参加する」、「参加したいが時間や暇がない」と回答した）割合は69.2%となっている。



(2) 参加したい地域活動（複数回答）

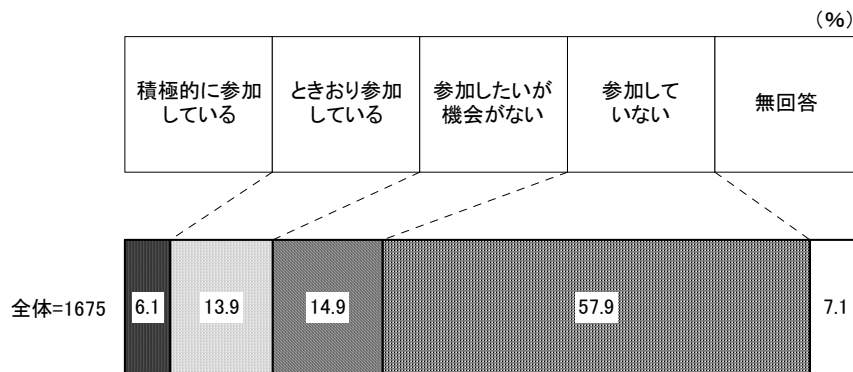
◆地域の清掃活動・リサイクル活動をあげる人が多い



(3) ボランティア活動への参加状況

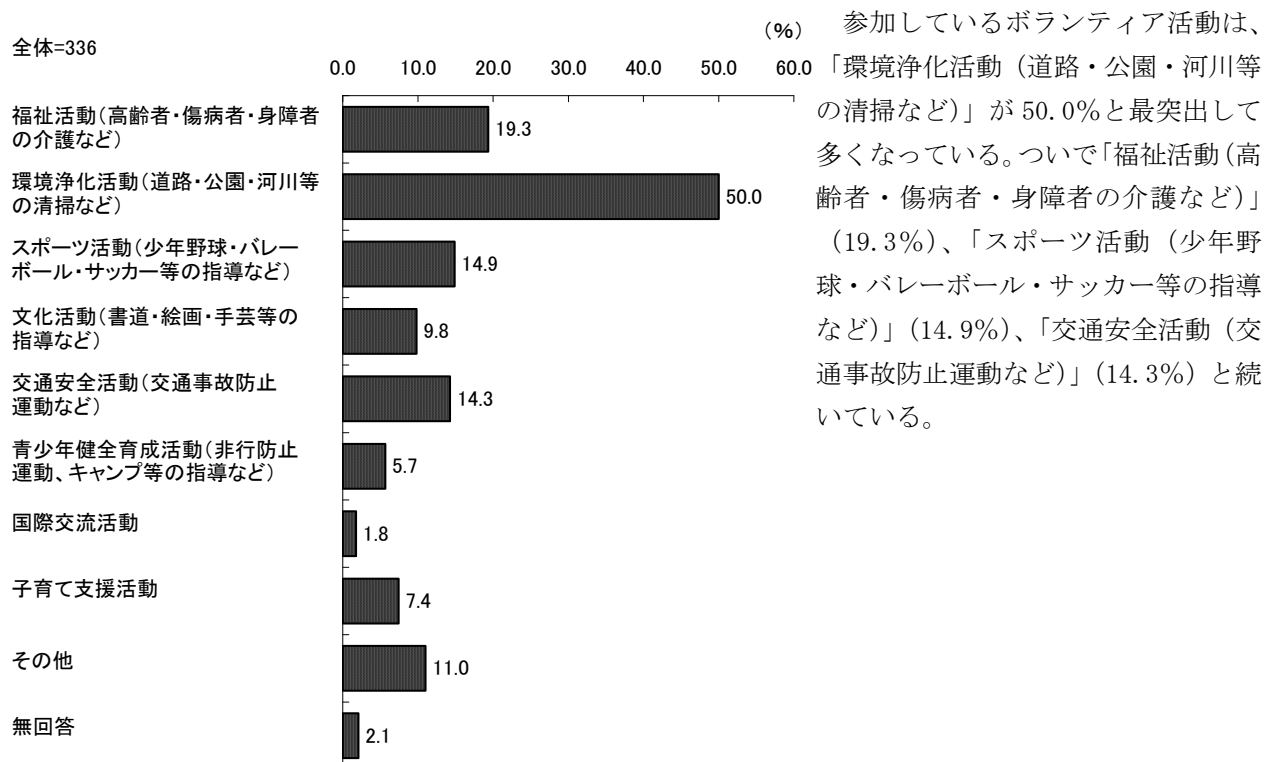
◆ボランティア活動に参加している市民は20.0%

ボランティア活動の参加状況を見ると、「参加していない」(57.9%)、「参加したいが機会がない」(14.9%)を合わせた不参加率は72.8%となっている。「積極的に参加している」(6.1%)、「ときおり参加している」(13.9%)を合わせた参加率は20.0%にとどまっている。



(4) 参加しているボランティア活動 (複数回答)

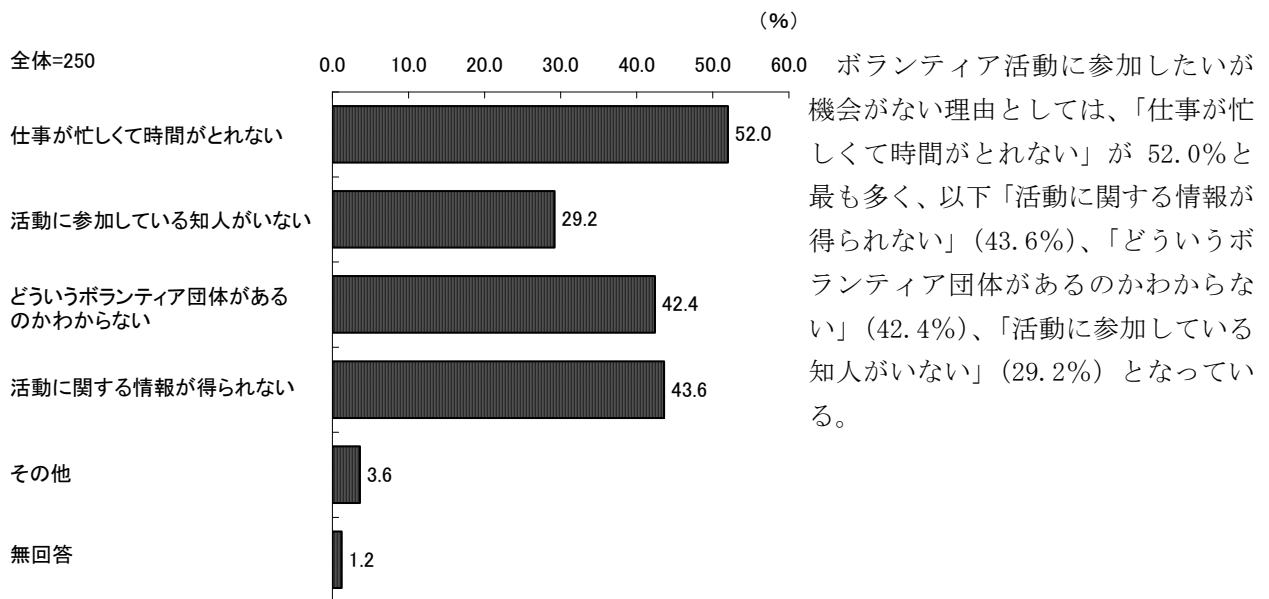
◆参加経験者のうち、5割が「環境浄化活動」



参加しているボランティア活動は、「環境浄化活動(道路・公園・河川等の清掃など)」が50.0%と最突出して多くなっている。ついで「福祉活動(高齢者・傷病者・身障者の介護など)」(19.3%)、「スポーツ活動(少年野球・バレーボール・サッカー等の指導など)」(14.9%)、「交通安全活動(交通事故防止運動など)」(14.3%)と続いている。

(5) 参加したいが機会がない理由 (複数回答)

◆「仕事が忙しくて時間がとれない」が52.0%、「どういうボランティア団体があるのかわからない」「活動に関する情報が得られない」が40%強

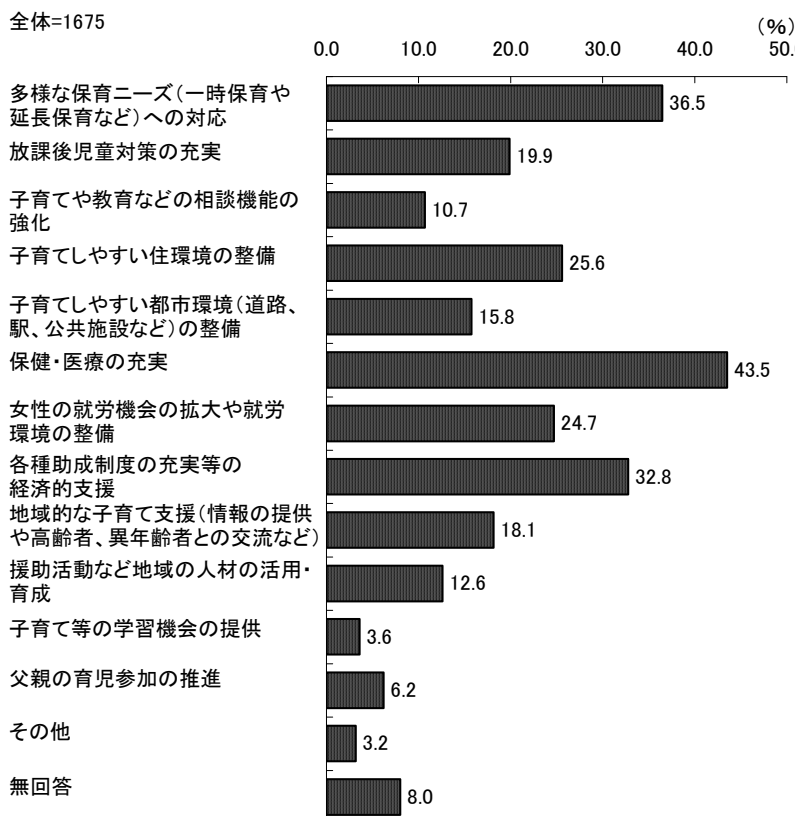


ボランティア活動に参加したいが機会がない理由としては、「仕事が忙しくて時間がとれない」が52.0%と最も多く、以下「活動に関する情報が得られない」(43.6%)、「どういうボランティア団体があるのかわからない」(42.4%)、「活動に参加している知人がいない」(29.2%)となっている。

3. 今後のまちづくりについて

(1) 少子化社会に対応するために重要なこと (複数回答)

◆「保健・医療の充実」と「多様な保育ニーズへの対応」が4割前後

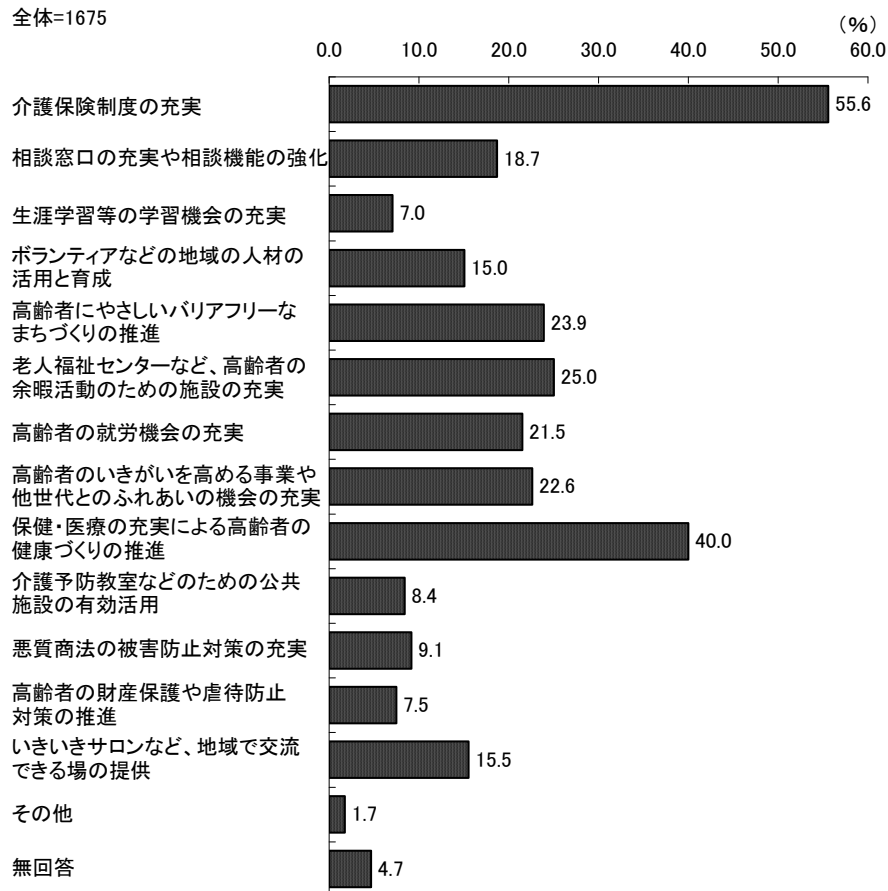


少子化社会に対応するために重要なことは、「保健・医療の充実」(43.5%)と「多様な保育ニーズ(一時保育や延長保育など)への対応」(36.5%)が4割前後で最も多く、ついで「各種助成制度の充実等の経済的支援」(32.8%)、「子育てしやすい住環境の整備」(25.6%)、「女性の就労機会の拡大や就労環境の整備」(24.7%)となっている。

(2) 高齢化社会に対応するために重要なこと（複数回答）

◆「介護保険制度の充実」55.6%、「保健・医療の充実による高齢者の健康づくりの推進」40.0%

高齢化社会に対応するために重要なことは、「介護保険制度の充実」が55.6%で最も多く、ついで「保健・医療の充実による高齢者の健康づくりの推進」が40.0%となっている。



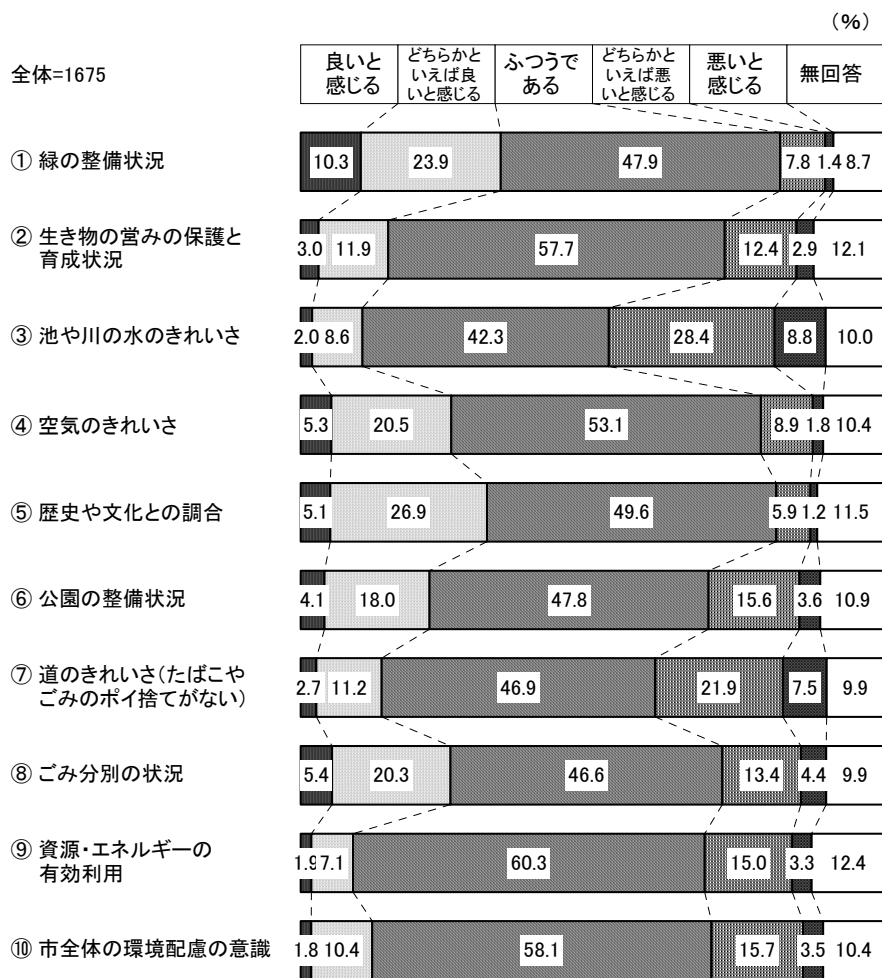
(3) 行田市の環境の良さ

◆「緑の整備状況」「歴史や文化との調合」「空気のきれいさ」の満足層は3割前後

行田市の環境の良さについては、「緑の整備状況」で、『満足層』（「良いと感じる」、「どちらかといえば良いと感じる」と回答した人の割合）が34.2%、「歴史や文化との調合」32.0%、「空気のきれいさ」25.8%と、他の項目に比べ高くなっている。「ごみ分別の状況」については『満足層』が25.7%みられるが、『不満足層』も17.8%と多く、評価が分かれている。

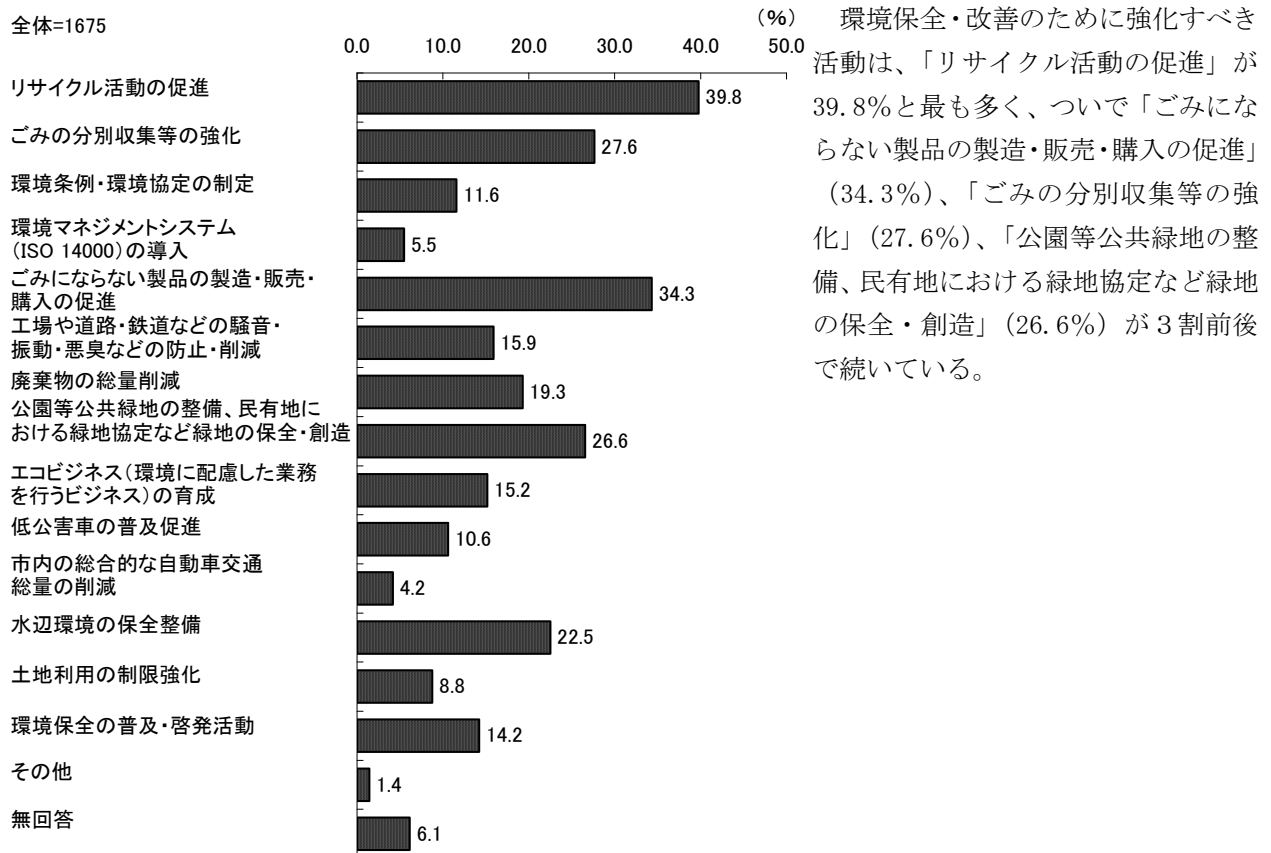
一方、「池や川の水のきれいさ」と「道のきれいさ」では、『不満足層』（「悪いと感じる」、「どちらかといえば悪いと感じる」と回答した人の割合）が約3～4割と強い不満がうかがえる。

この他、「公園の整備状況」や「資源・エネルギーの有効利用」、「市全体の環境配慮の意識」は『不満足層』が約2割おり評価は低いといえる。



(4) 環境保全・改善のために強化すべき活動（複数回答）

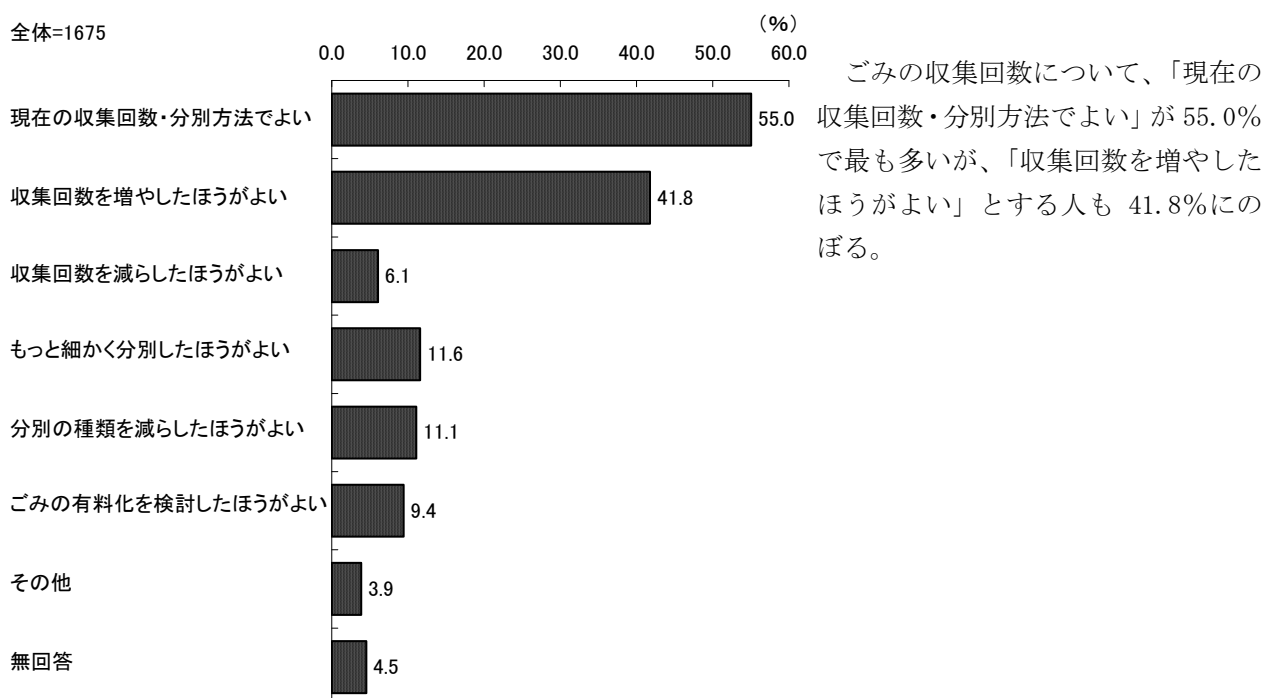
◆「リサイクル活動の促進」が4割、「ごみにならない製品の製造・販売・購入の促進」「ごみの分別収集等の強化」「公園等公共緑地の整備、民有地における緑地協定など緑地の保全・創造」が3割前後



(5) 市のごみ収集体制について

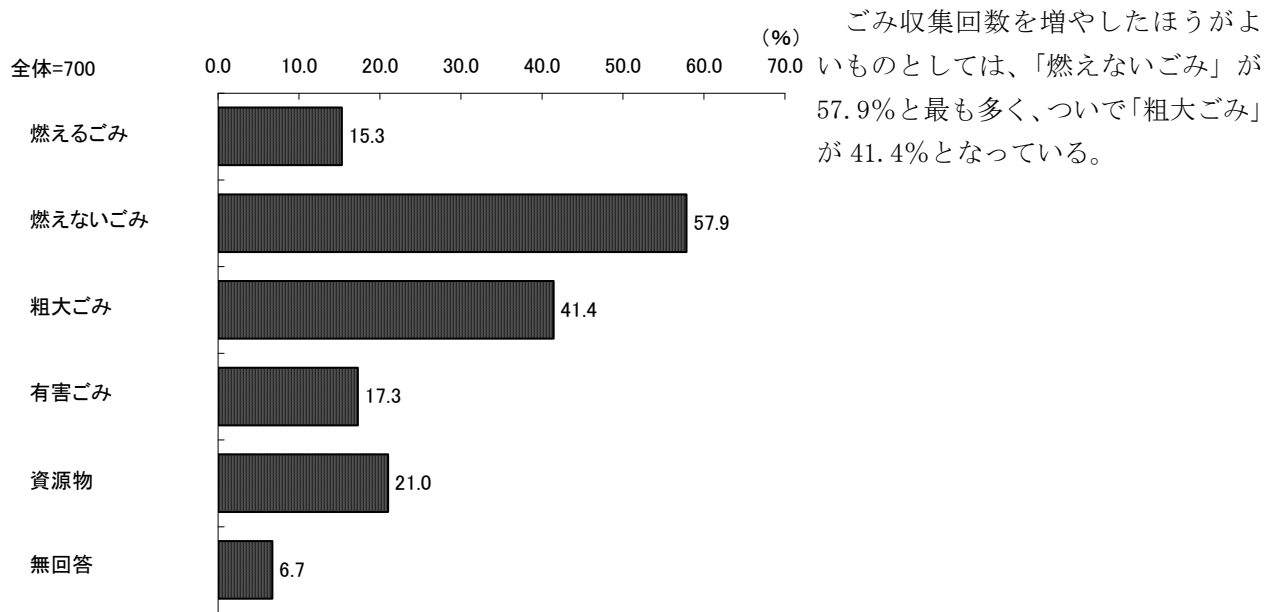
①収集回数や分別方法について（複数回答）

◆ごみ収集回数は「現在の収集回数・分別方法でよい」が55.0%、「収集回数を増やしたほうがよい」が41.8%



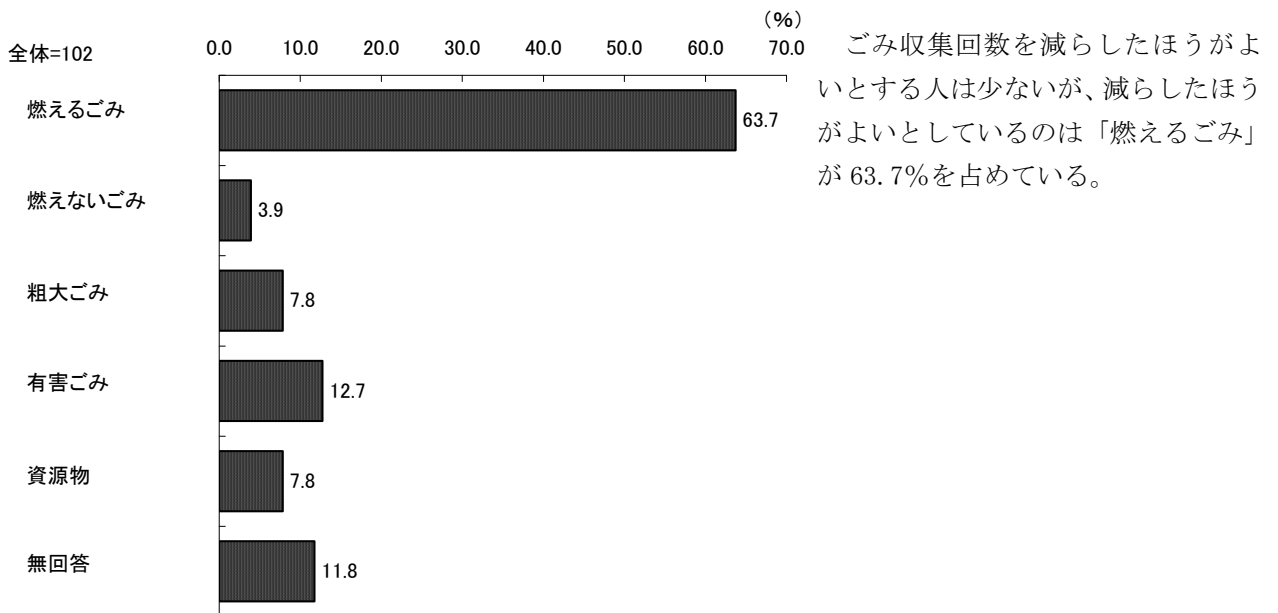
②ごみ収集回数を増やしたほうがよいもの（複数回答）

◆収集回数の増加を求める人の57.9%は、燃えないごみの回数増をあげている



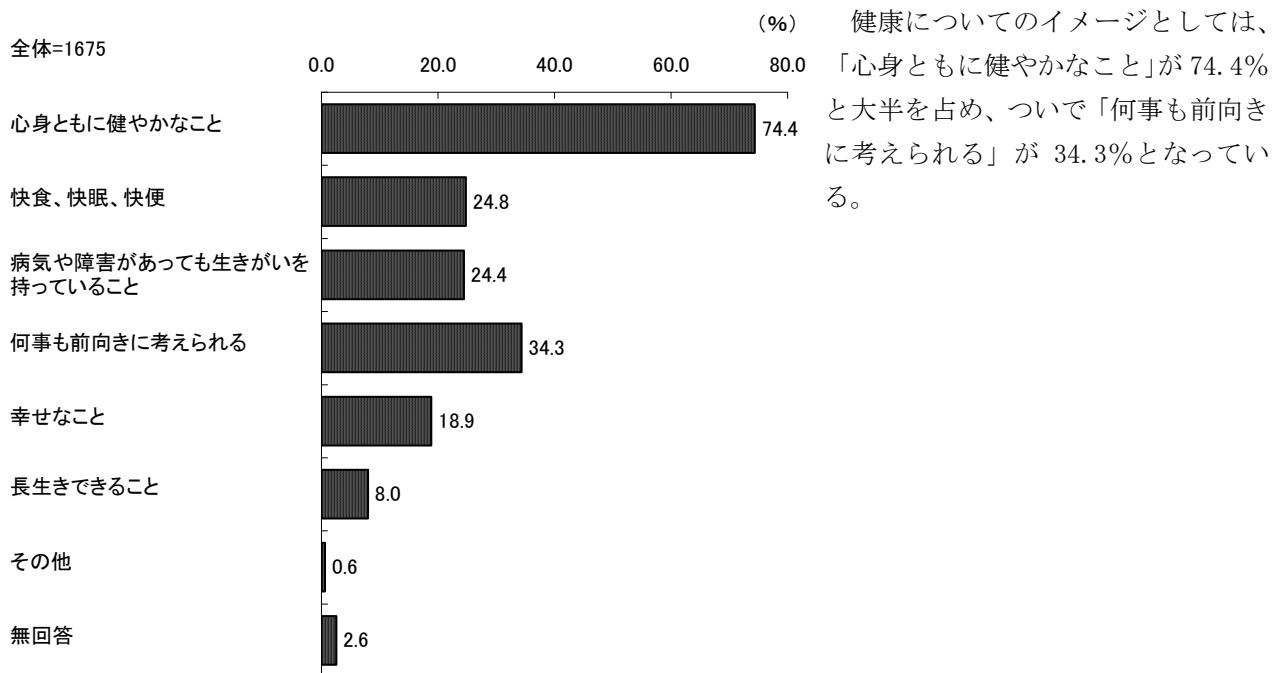
③ごみ収集回数を減らしたほうがよいもの（複数回答）

◆収集回数の減少を求める人の大半は、燃えるごみをあげている



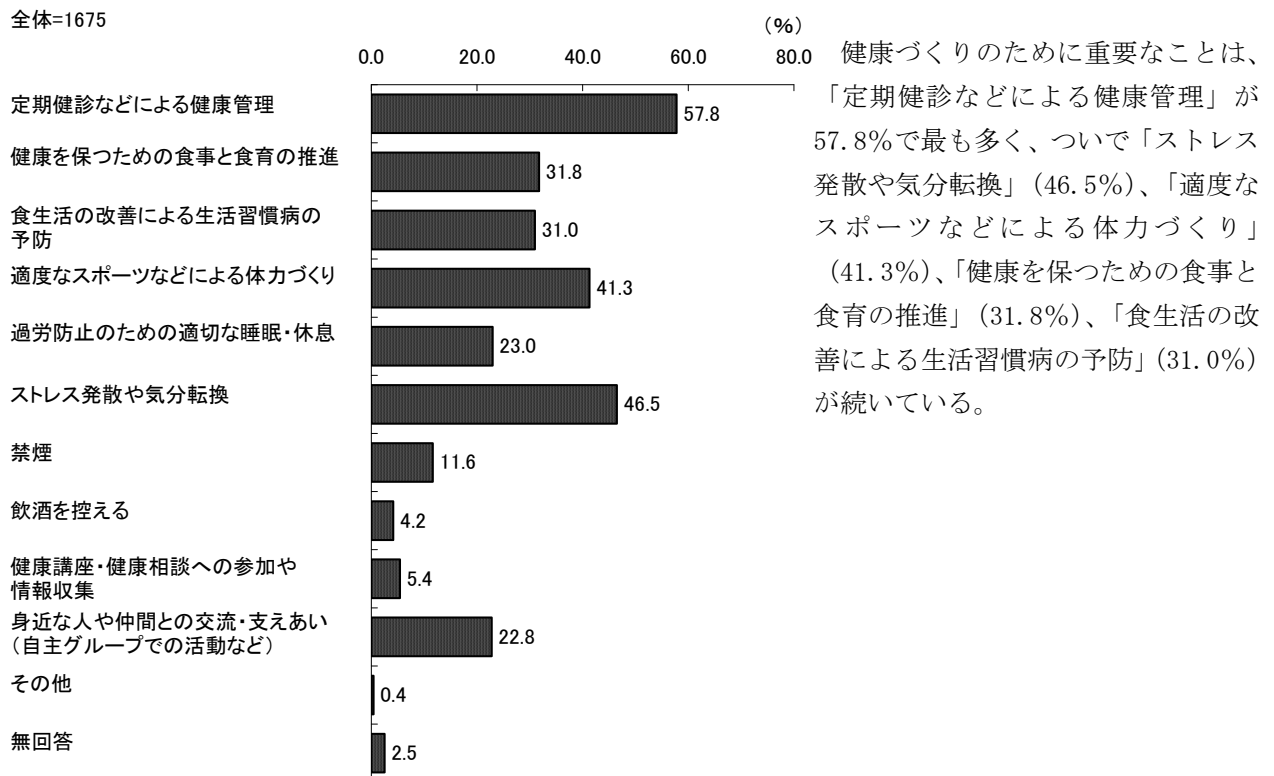
(6) 健康についてのイメージ (複数回答)

◆「心身ともに健やかなこと」が74.4%



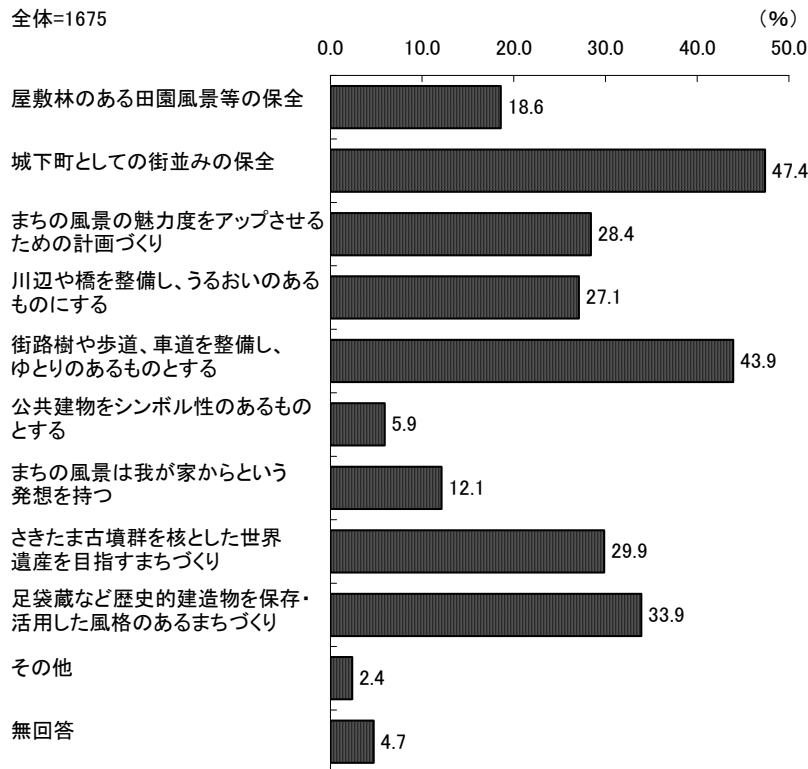
(7) 健康づくりのために重要なこと (複数回答)

◆「定期健診などによる健康管理」が57.8%



(8) 歴史を生かした魅力ある景観づくりに重要なこと（複数回答）

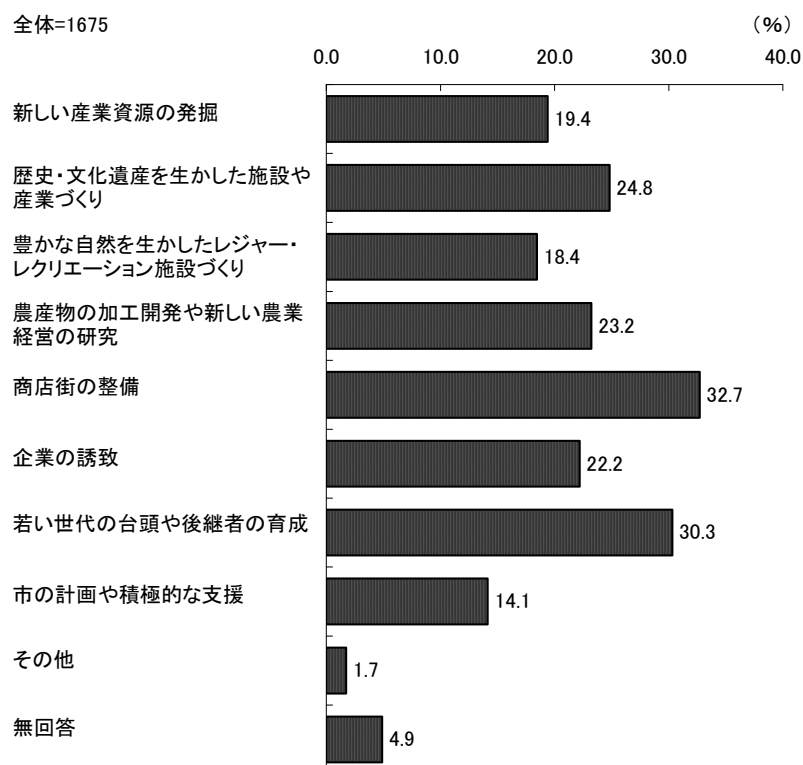
◆「城下町としての街並みの保全」と「街路樹や歩道、車道を整備し、ゆとりのあるものとする」が4割台



歴史を生かした魅力ある景観づくりに重要なことは、「城下町としての街並みの保全」(47.4%)と「街路樹や歩道、車道を整備し、ゆとりのあるものとする」(43.9%)が40%台で最も多く、ついで「足袋蔵など歴史的建造物を保存・活用した風格のあるまちづくり」(33.9%)、「さきたま古墳群を核とした世界遺産を目指すまちづくり」(29.9%)、「まちの風景の魅力度をアップさせるための計画づくり」(28.4%)、「川辺や橋を整備し、うるおいのあるものにする」(27.1%)が30%前後となっている。

(9) 商業や産業の振興に重要なこと（複数回答）

◆「商店街の整備」「後継者の育成」が重要と考える市民が3割強

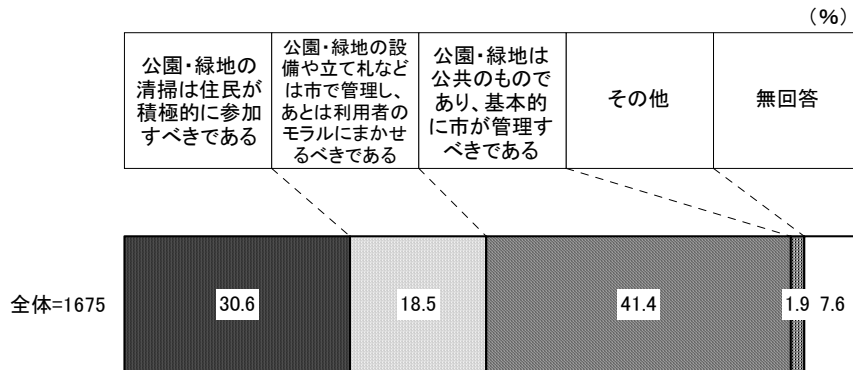


商業や産業の振興に重要なことは、「商店街の整備」(32.7%)と「若い世代の台頭や後継者の育成」(30.3%)が3割強と最も多く、ついで「歴史・文化遺産を生かした施設や産業づくり」(24.8%)、「農産物の加工開発や新しい農業経営の研究」(23.2%)、「企業の誘致」(22.2%)など、意見が分散している。

(10) 公園・緑地の維持管理について

◆「基本的に市が管理すべきである」が41.4%、「住民が積極的に参加すべきである」が30.6%

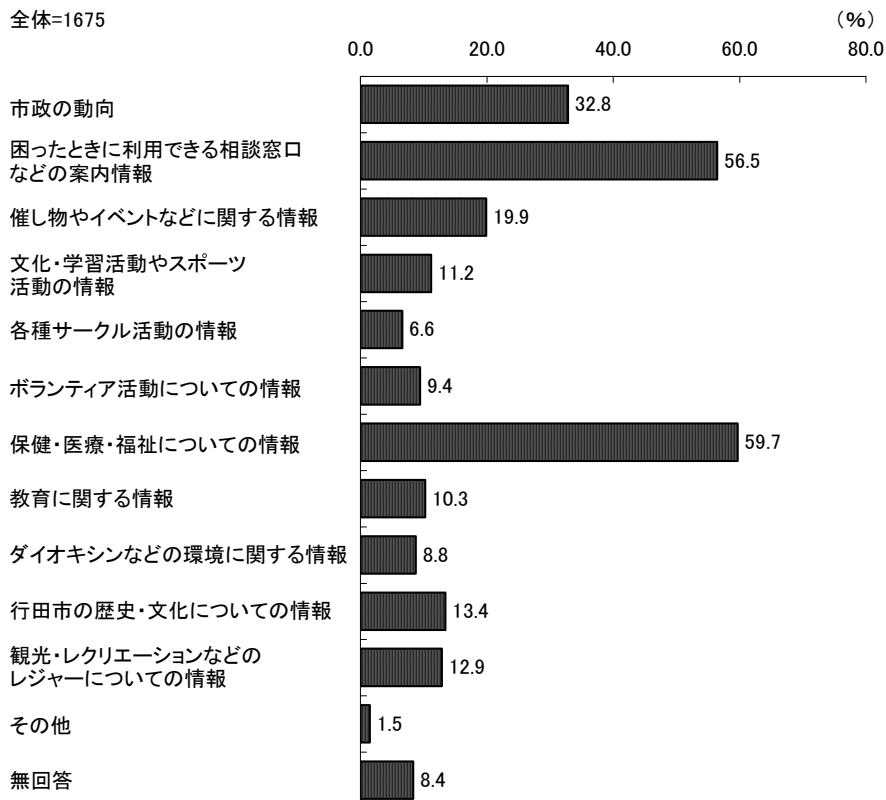
公園・緑地の維持管理については、「公園・緑地は公共のものであり、基本的に市が管理すべきである」が41.4%なのに対し、「公園・緑地の清掃は住民が積極的に参加すべきである」が30.6%となっている。「公園・緑地の設備や立て札などは市で管理し、あとは利用者のモラルにまかせるべきである」は18.5%である。



(11) 詳しく知りたい情報（複数回答）

◆「保健・医療・福祉についての情報」と「相談窓口などの案内情報」が半数以上

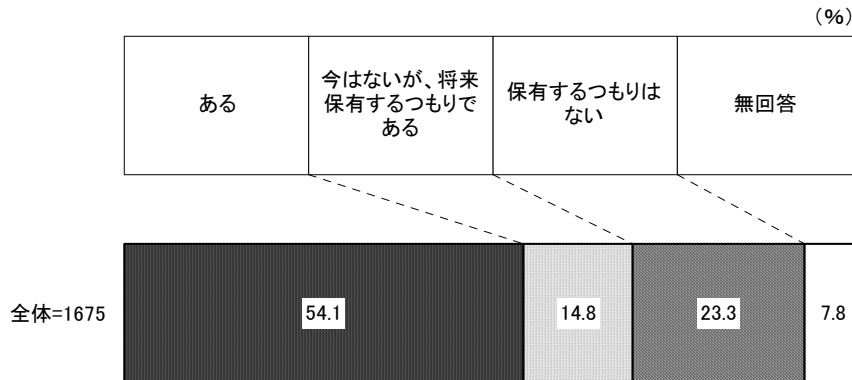
市から提供される情報の中で詳しく知りたい情報としては、「保健・医療・福祉についての情報」(59.7%)と「困ったときに利用できる相談窓口などの案内情報」(56.5%)が半数以上と最も多く、ついで「市政の動向」が32.8%となっている。



(12) インターネットが利用できるパソコンの保有状況

◆インターネットの利用ができるパソコンが「ある」は54.1%

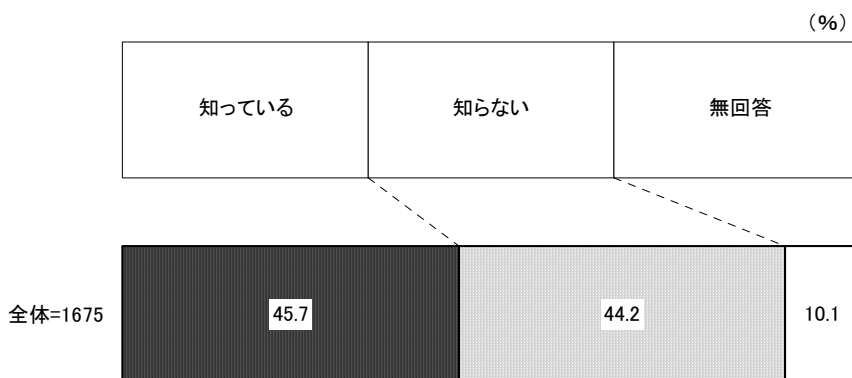
インターネットが利用できるパソコンが「ある」としている人は54.1%と半数以上を占めている。「今はないが、将来保有するつもりである」は14.8%、「保有するつもりはない」は23.3%となっている。



(13) インターネットを利用した国・県・市への申請届出の認知

◆インターネットを利用した申請届出の認知率は45.7%

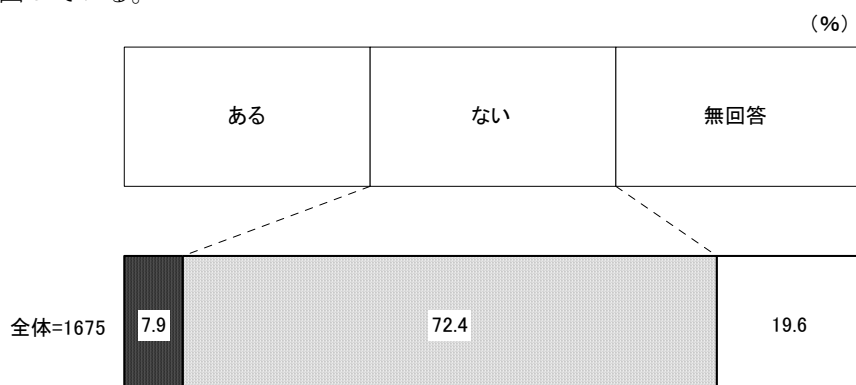
インターネットを利用して国・県・市への申請届出ができることを「知っている」人は45.7%、「知らない」人は44.2%と半数ずつとなっている。



(14) インターネットを使って利用したい市のサービスの有無

◆利用したいサービスが「ない」が72.4%

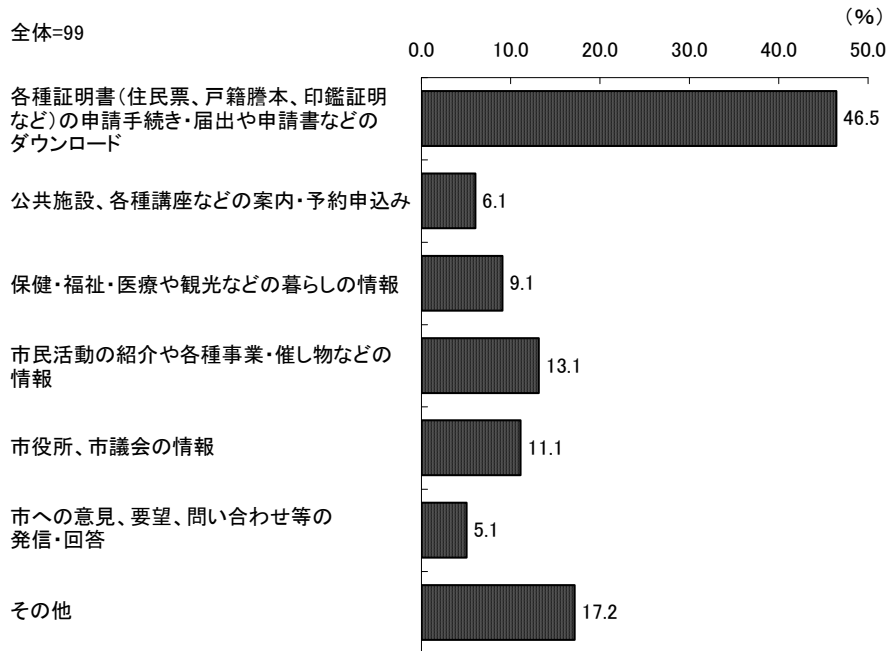
インターネットを使って利用したい市のサービスが、「ない」が72.4%と多く、「ある」(7.9%)を大きく上回っている。



(15) インターネットを使って利用したい市のサービス

◆「各種証明書の申請手続き・届出や申請書などのダウンロード」が最も多い

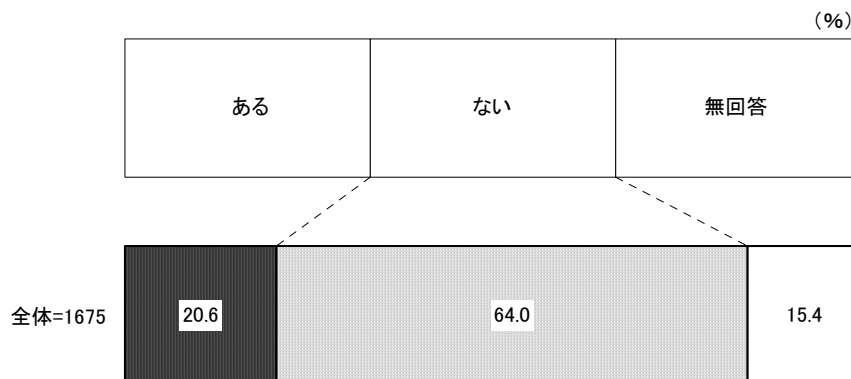
インターネットを使って利用したい市のサービスがあると回答した人に具体的なサービスを自由回答によりあげてもらったところ、「各種証明書の申請手続き・届出や申請書などのダウンロード」をあげる人が約半数と多くなっている。



(16) 市のホームページの閲覧状況

◆見たことがない市民が64.0%、見たことがある市民は20.6%

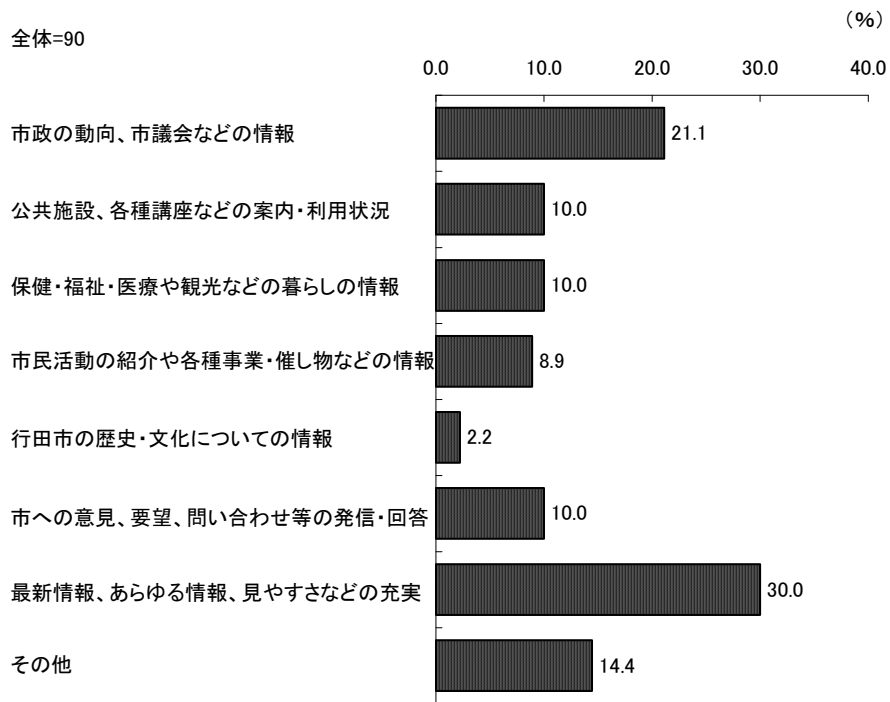
市のホームページ（携帯電話用サービスを含む）の閲覧状況は、「ない」が64.0%と多く、「ある」は20.6%にとどまる。



(17) 市のホームページに掲載してほしい情報

◆「最新情報、あらゆる情報、見やすさなどの充実」をあげる人が多い

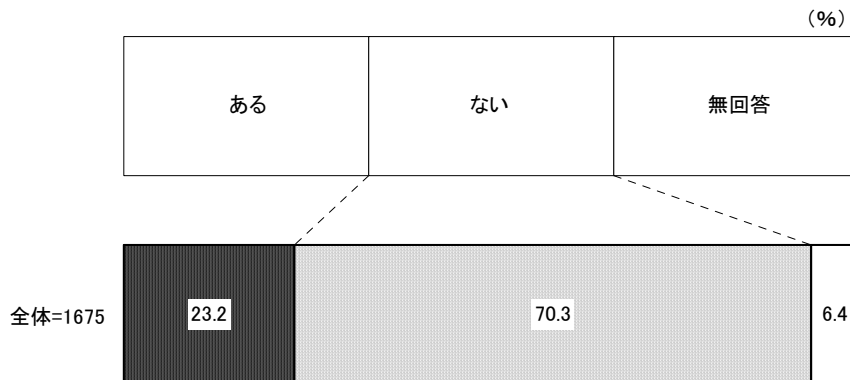
市のホームページに掲載してほしい情報を自由回答により記入してもらったところ、「最新情報、あらゆる情報、見やすさなどの充実」をあげる人が 30.0%と最も多く、ついで「市政の動向、市議会などの情報」が 21.1%となっている。



(18) 市内循環バスの利用状況

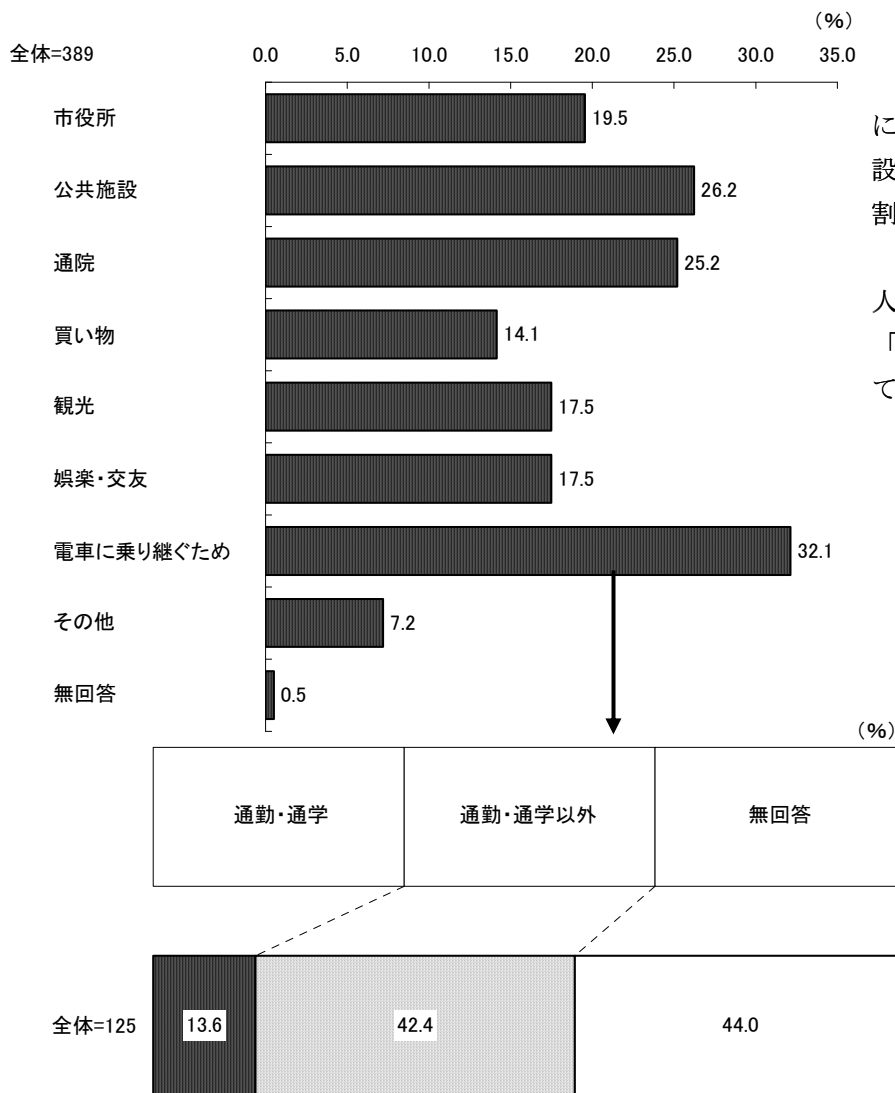
◆市内循環バスの利用者は 23.2%

市内循環バスを利用したことが「ある」は 23.2%にとどまり、「ない」が 70.3%を占めている。



(19) 市内循環バスの利用目的 (複数回答)

◆ 「電車に乗り継ぐため」「公共施設」「通院」が3割前後

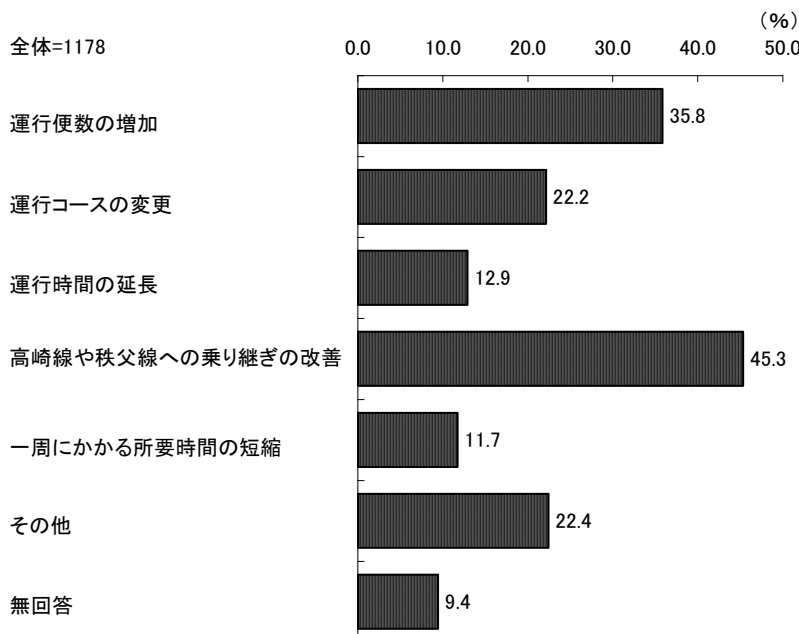


市内循環バスの利用目的は、「電車に乗り継ぐため」(32.1%)、「公共施設」(26.2%)、「通院」(25.2%)が3割前後で最も多くなっている。

「電車に乗り継ぐため」と回答した人の目的は、「通勤・通学」が13.6%、「通勤・通学以外」が42.4%となっている。

(20) 市内循環バスの今後の利用条件 (複数回答)

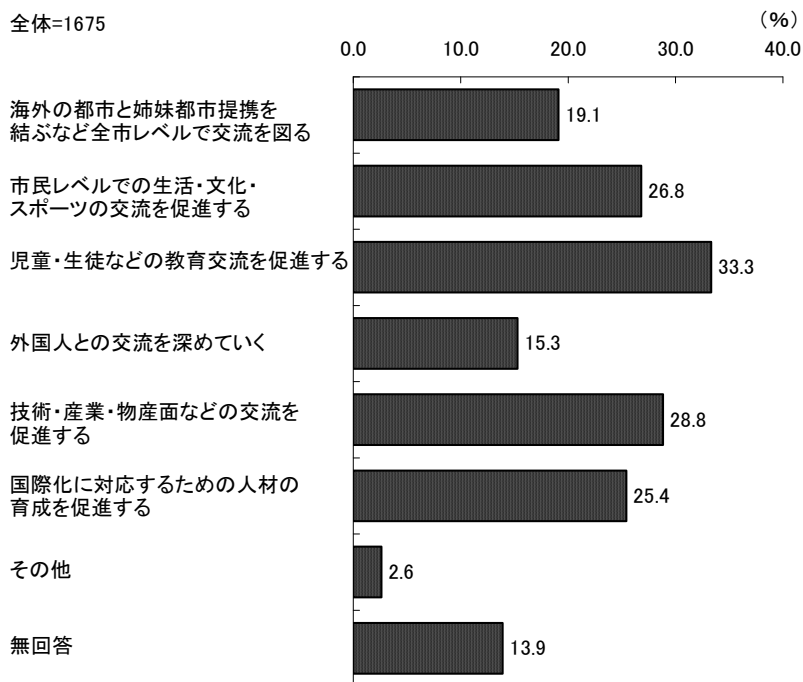
◆ 「高崎線や秩父線への乗り継ぎの改善」45.3%、「運行便数の増加」35.8%



市内循環バスを利用したことがない人の今後の利用条件については、「高崎線や秩父線への乗り継ぎの改善」が45.3%と最も多く、ついで「運行便数の増加」が35.8%となっている。

(21) 望ましい国際交流の促進方法（複数回答）

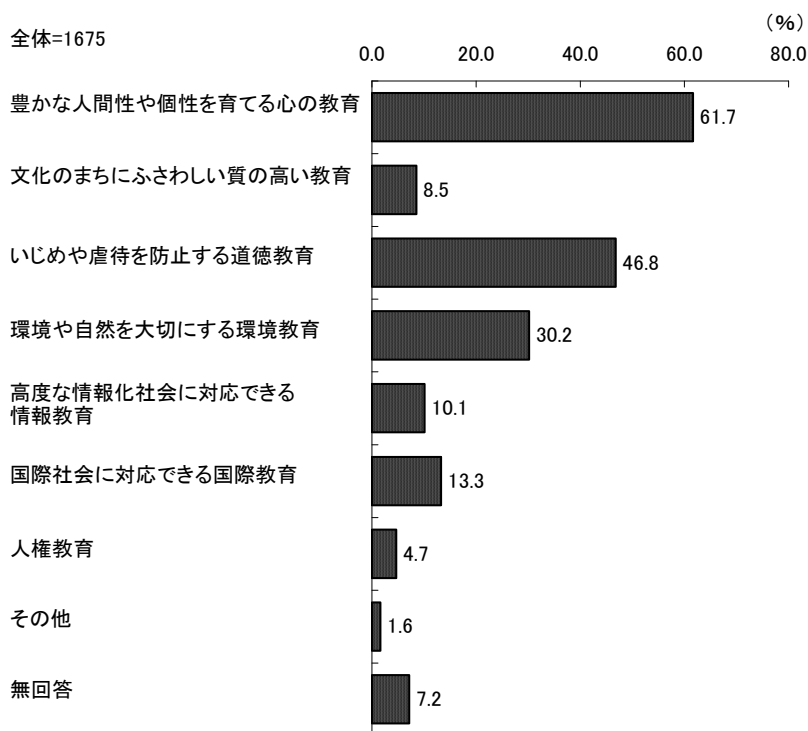
◆「児童・生徒などの教育交流の促進」「技術・産業・物産面などの交流の促進」「市民レベルでの生活・文化・スポーツの交流の促進」「国際化に対応するための人材の育成の促進」が3割前後



望ましい国際交流の促進方法は、「児童・生徒などの教育交流を促進する」が33.3%と最も多く、ついで「技術・産業・物産面などの交流を促進する」(28.8%)、「市民レベルでの生活・文化・スポーツの交流を促進する」(26.8%)、「国際化に対応するための人材の育成を促進する」(25.4%)が続いている。

(22) 力を入れるべき教育（複数回答）

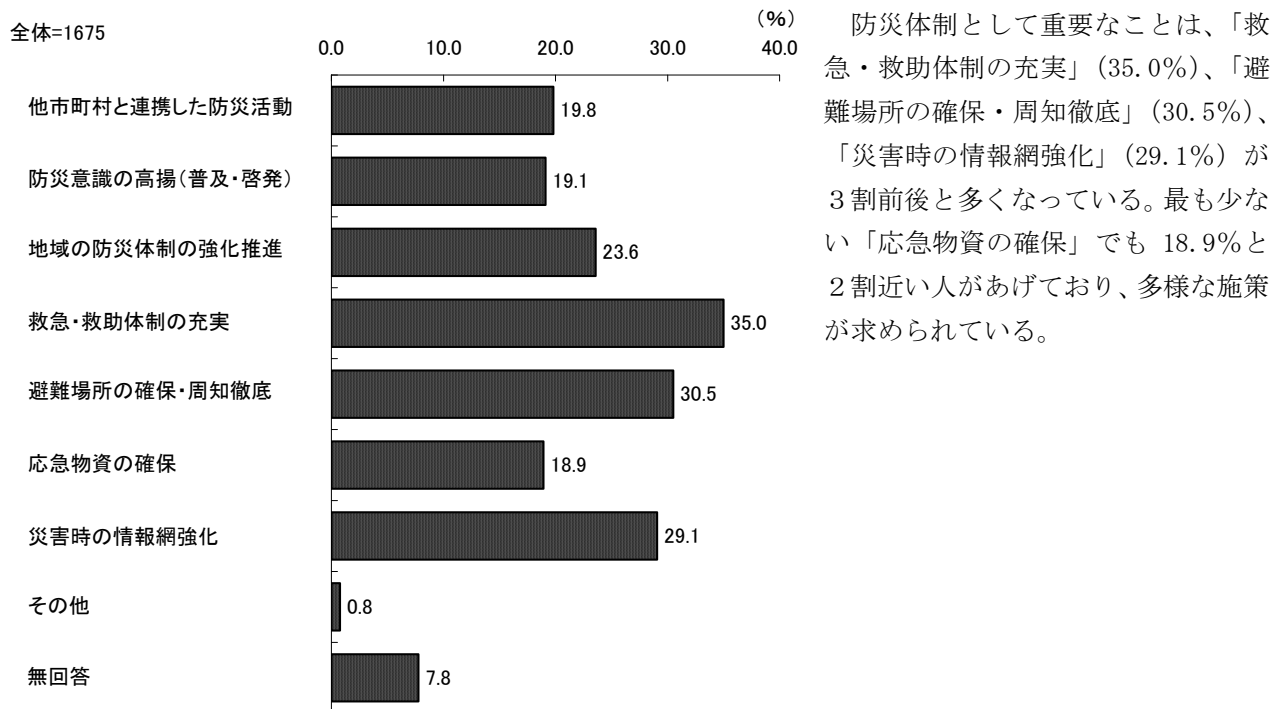
◆「豊かな人間性や個性を育てる心の教育」が61.7%



力を入れるべき教育は、「豊かな人間性や個性を育てる心の教育」が61.7%と最も多く、ついで「いじめや虐待を防止する道徳教育」(46.8%)、「環境や自然を大切にする環境教育」(30.2%)となっている。

(23) 防災体制として重要なこと（複数回答）

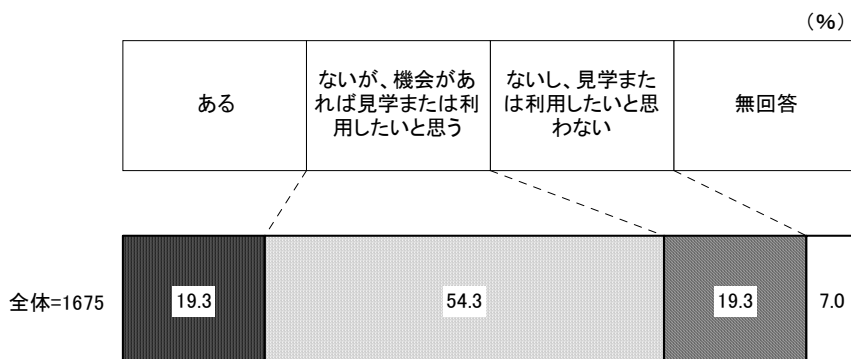
◆「救急・救助体制の充実」「避難場所の確保・周知徹底」「災害時の情報網強化」が3割前後



(24) ものづくり大学施設の見学・利用状況

◆半数強の市民が、「見学・利用したことがないが機会があればしたい」と思っている

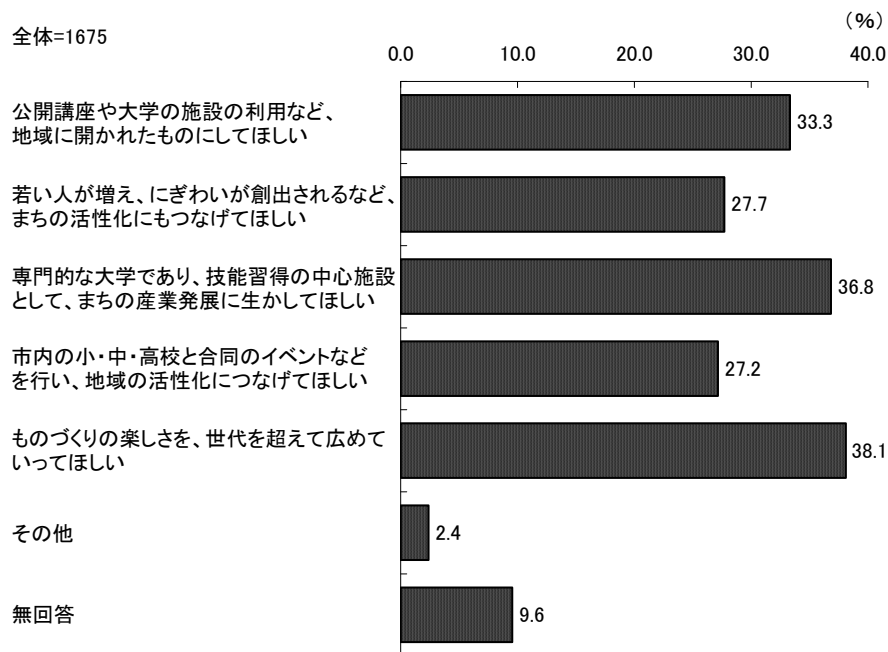
ものづくり大学施設の見学・利用状況は、「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」が54.3%と最も多い。「ある」、「ないし、見学または利用したいと思わない」は19.3%となっている。大学の見学・利用意向がある（「ある」、「ないが、機会があれば見学または利用したいと思う」と回答した）割合は73.6%と多数を占めている。



(25) ものづくり大学に期待すること（複数回答）

◆「ものづくりの楽しさを、世代を超えて広めてほしい」「専門的な大学であり、技能習得の中心施設として、まちの産業発展に生かしてほしい」「公開講座や大学の施設の利用など、地域に開かれたものにしてほしい」が上位

ものづくり大学に期待することとしては、「ものづくりの楽しさを、世代を超えて広めてほしい」が38.1%と最も多く、ついで「専門的な大学であり、技能習得の中心施設として、まちの産業発展に生かしてほしい」(36.8%)、「公開講座や大学の施設の利用など、地域に開かれたものにしてほしい」(33.3%)、「若い人が増え、にぎわいが創出されるなど、まちの活性化にもつなげてほしい」(27.7%)、「市内の小・中・高校と合同のイベントなどを行い、地域の活性化につなげてほしい」(27.2%)が3割前後となっており、多様な期待が寄せられている。

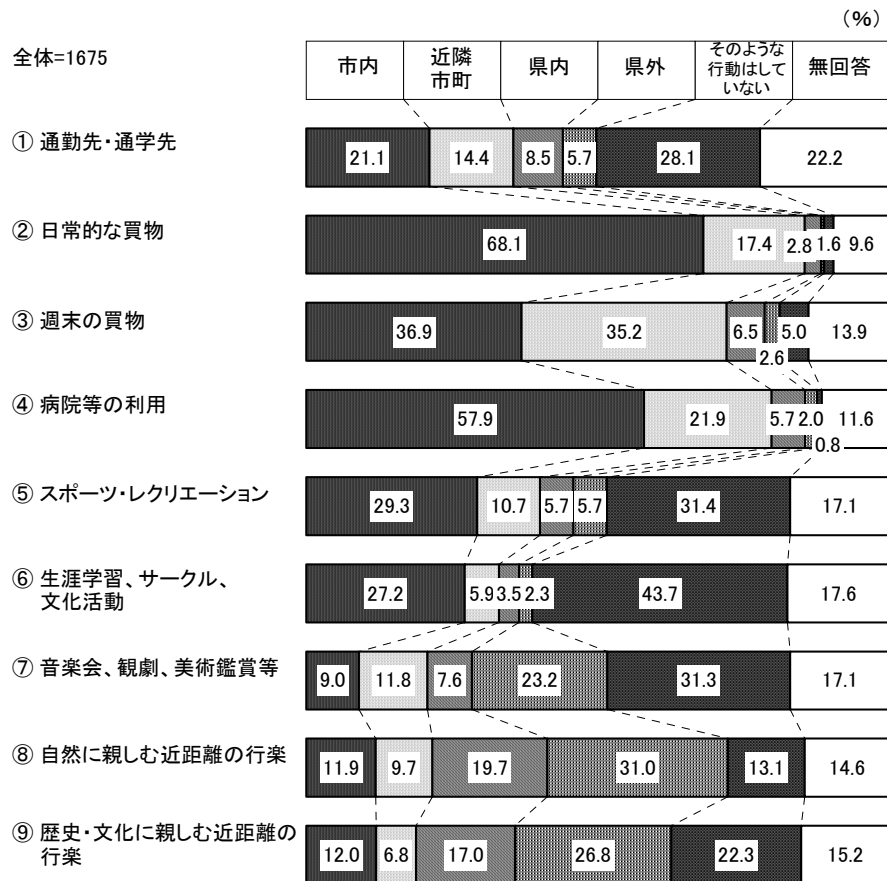


(26) 市民の通勤・通学、買物等の主な行き先

◆「日常的な買物」と「病院等の利用」は「市内」が約6～7割

「市内」との回答が最も多いのは、「日常的な買物」(68.1%)、ついで「病院等の利用」(57.9%)となっている。「週末の買物」については、「市内」(36.9%)と「近隣市町」(35.2%)がほぼ同数となっている。

一方、「自然に親しむ近距離の行楽」「歴史・文化に親しむ近距離の行楽」「音楽会、観劇、美術鑑賞等」については「県外」が約2～3割となっている。



4. 男女平等意識について

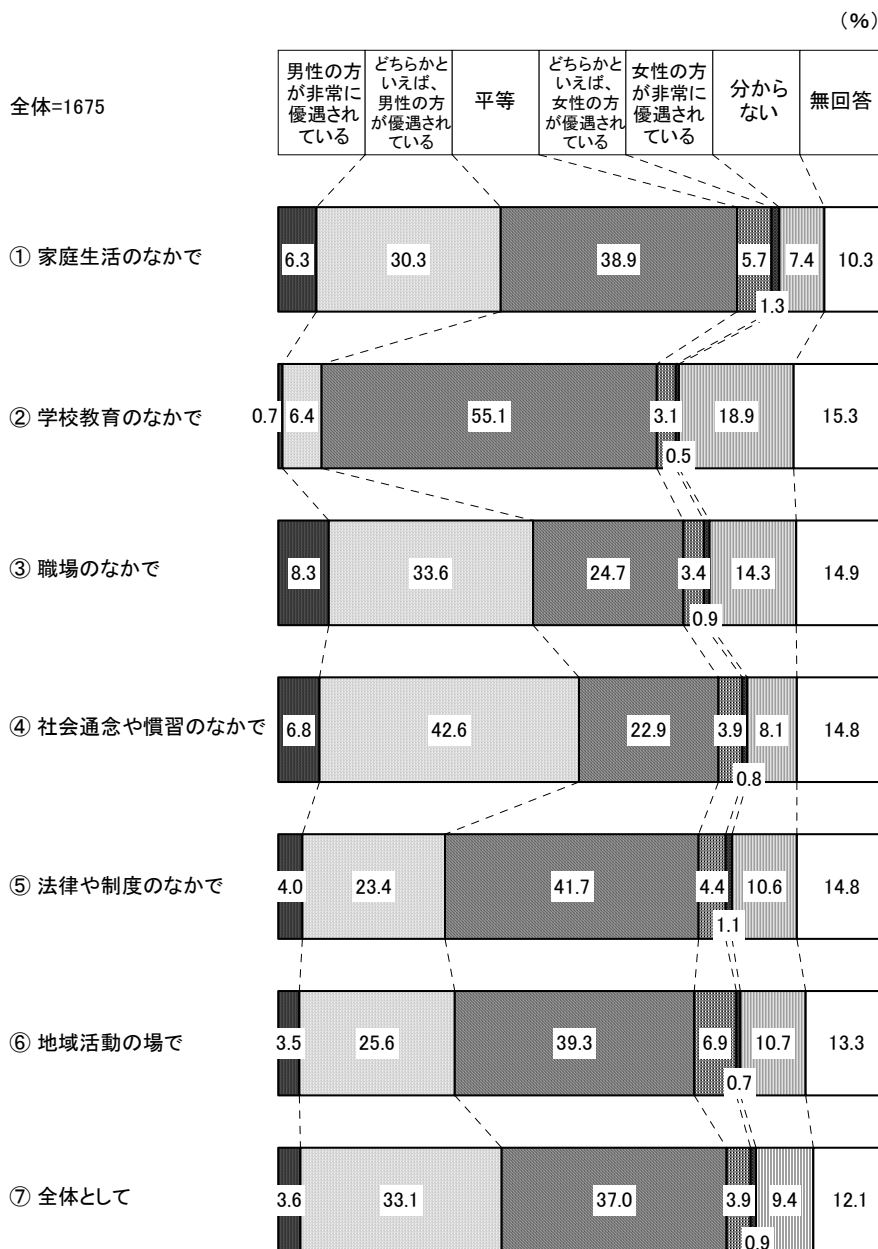
(1) 男女の地位の平等感について

◆「社会通念や慣習のなかで」「職場のなかで」は『男性の方が優遇されている』が4～5割

男女の地位の平等感について、「社会通念や慣習のなかで」については『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」と回答した割合）が49.4%と約半数を占めている。「職場のなかで」についても『男性の方が優遇されている』とする人が41.9%となっている。

一方、『女性の方が優遇されている』（「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」と回答した割合）はどの項目も1割に満たないが、「学校教育のなかで」は「平等」との回答が55.1%となっている。

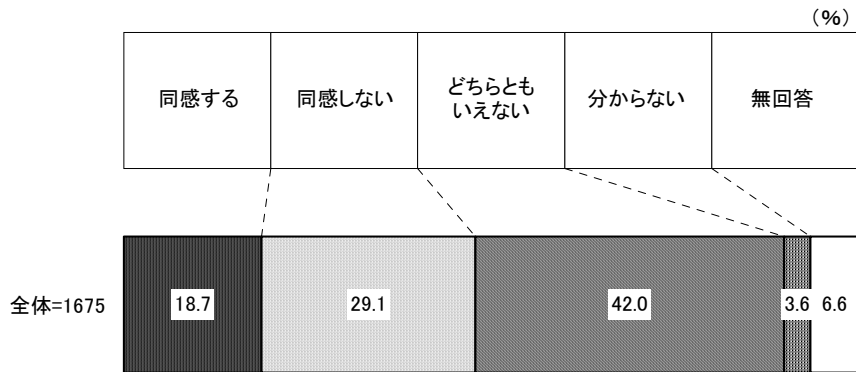
また、「家庭生活のなかで」「全体として」では『男性の方が優遇されている』と「平等」との回答がそれぞれ30%台と意見が分かれている。



(2) 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担の考え方について

◆「同感する」18.7%、「同感しない」29.1%、「どちらともいえない」42.0%

「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、「同感する」18.7%、「同感しない」29.1%、「どちらともいえない」42.0%となっている。



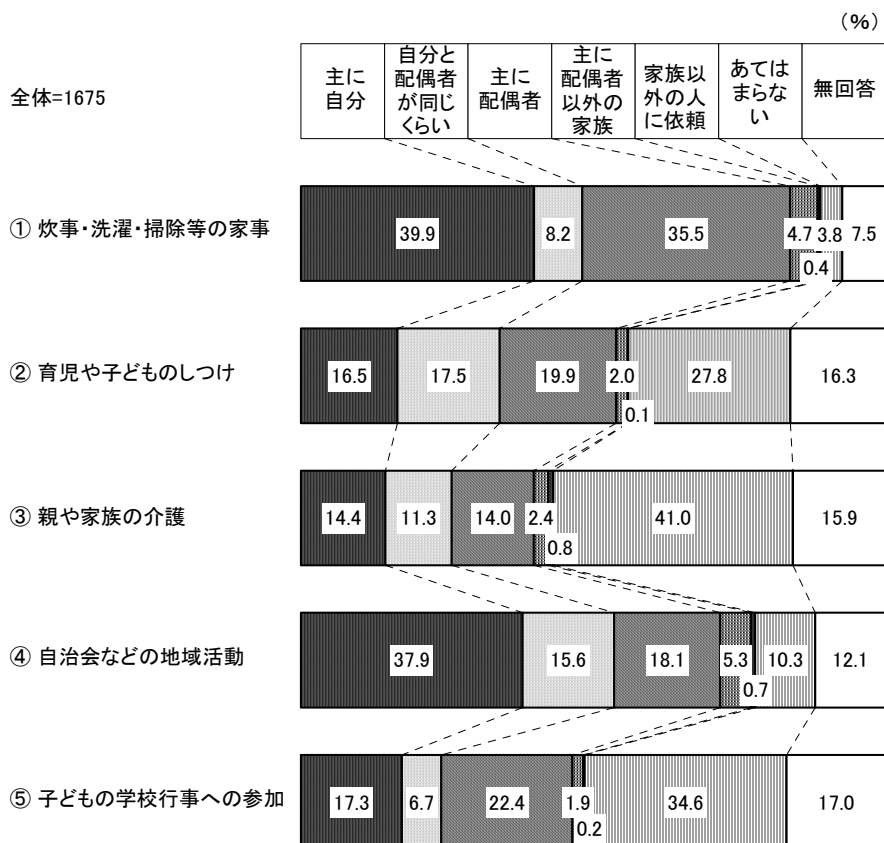
(3) 家庭での作業分担

◆「自治会などの地域活動」は「主に自分」が37.9%

家庭での作業分担については、「自治会などの地域活動」は「主に自分」との回答が37.9%と多くなっている。

一方、「炊事・洗濯・掃除等の家事」については、「主に自分」と「主に配偶者」との回答が約4割ずつ、「子どもの学校行事への参加」についても「主に自分」と「主に配偶者」が約2割ずつとなっている。

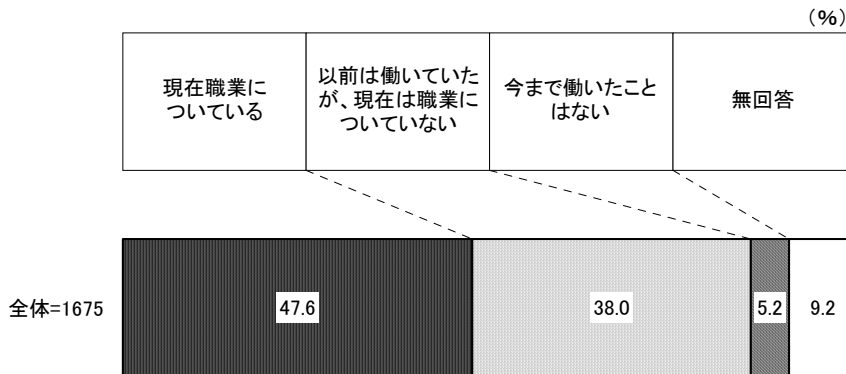
また、「育児や子どものしつけ」と「親や家族の介護」については「主に自分」「自分と配偶者が同じくらい」「主に配偶者」がほぼ同数ずつとなっている。



(4) 就業状況

◆「現在職業についている」47.6%、「以前は働いていたが、現在は職業についていない」38.0%、「今まで働いたことはない」5.2%

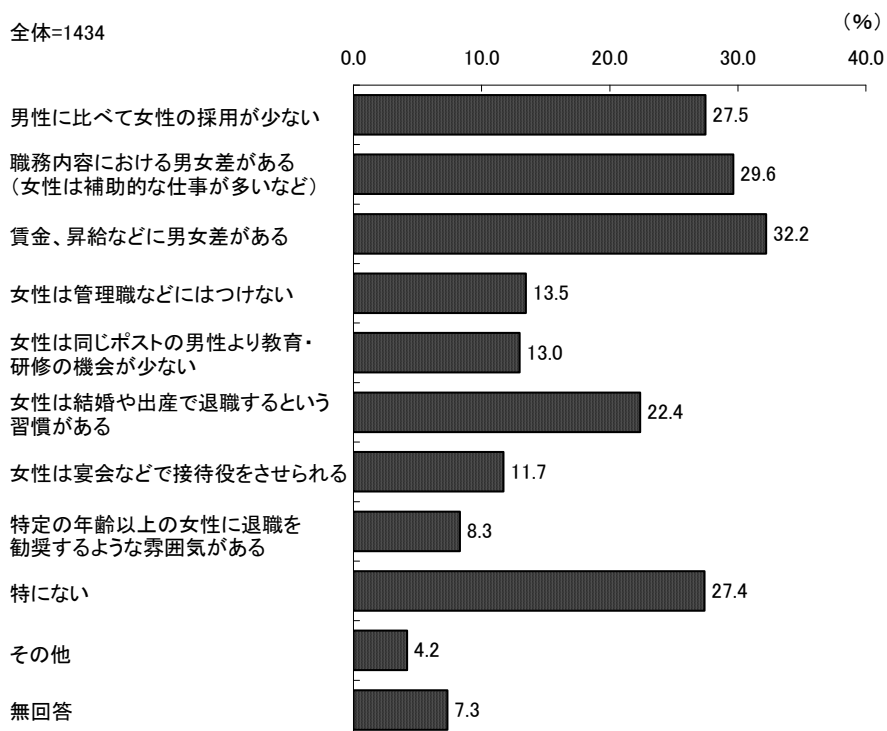
現在の就業状況については、「現在職業についている」47.6%、「以前は働いていたが、現在は職業についていない」38.0%、「今まで働いたことはない」5.2%となっている。



(5) 職場での男女間の差 (複数回答)

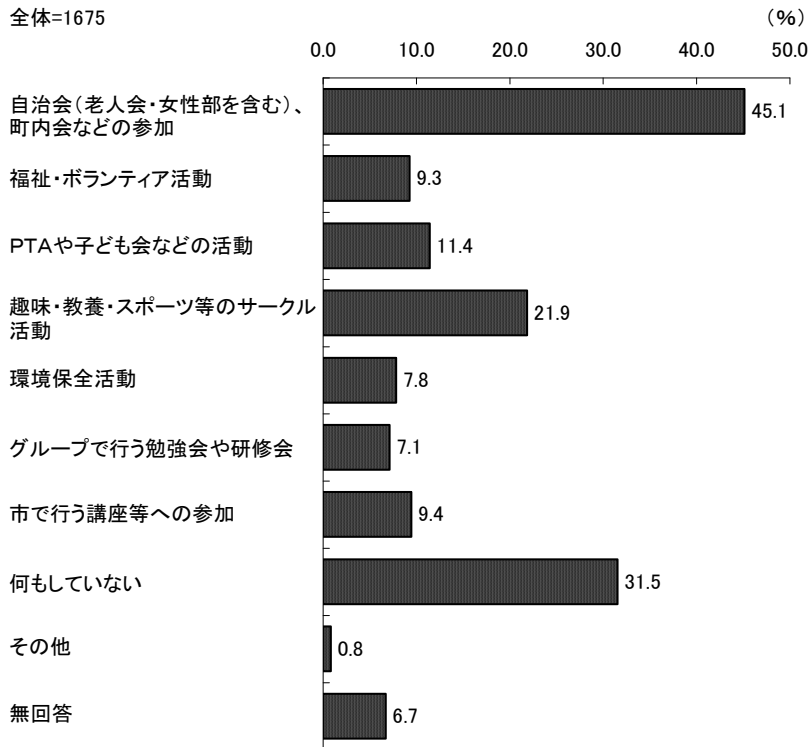
◆「賃金、昇給などに男女差がある」「職務内容における男女差がある(女性は補助的な仕事が多いなど)」「男性に比べて女性の採用が少ない」が3割前後

職場での男女間の差については、「賃金、昇給などに男女差がある」(32.2%)、「職務内容における男女差がある(女性は補助的な仕事が多いなど)」(29.6%)、「男性に比べて女性の採用が少ない」(27.5%)が3割前後で最も多く、ついで「女性は結婚や出産で退職するという習慣がある」が22.4%で続いている。「特にない」との回答も27.4%となっている。



(6) 社会活動への参加状況（複数回答）

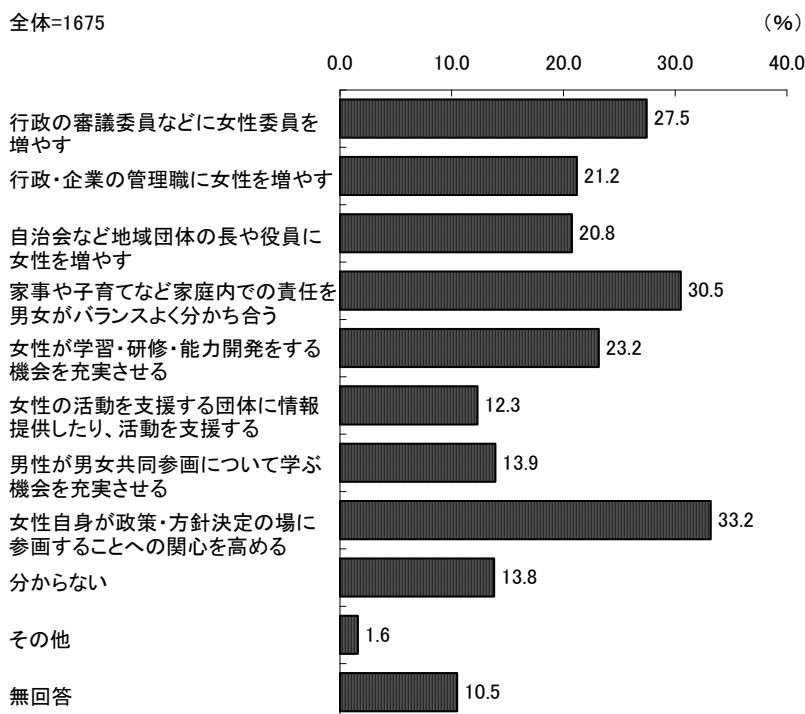
◆「自治会（老人会・女性部を含む）、町内会などの参加」45.1%、「何もしていない」31.5%



この1年間の社会活動への参加状況は、「自治会（老人会・女性部を含む）、町内会などの参加」が45.1%と最も多く、ついで「趣味・教養・スポーツ等のサークル活動」が21.9%となっている。一方、「何もしていない」も31.5%と約3人に1人の割合となっている。

(7) 女性が政策立案や方針決定をする場に進出するために必要なこと（複数回答）

◆「女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める」「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」「行政の審議委員などに女性委員を増やす」が3割前後

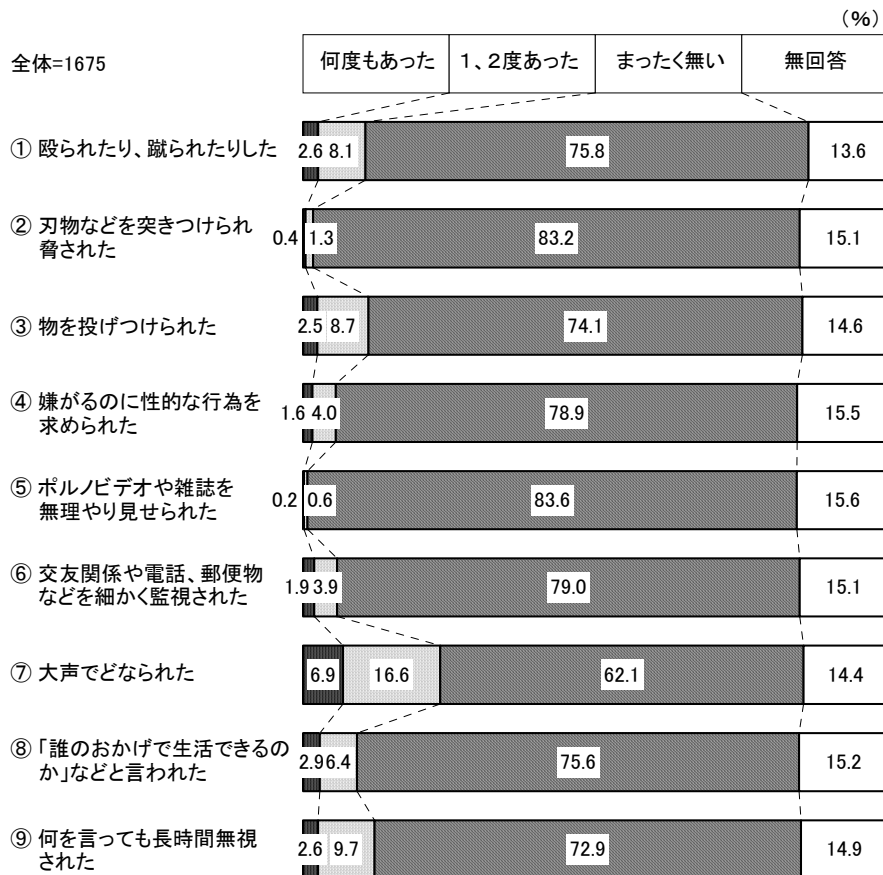


女性が政策立案や方針決定をする場に進出するために必要なことは、「女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める」(33.2%)、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」(30.5%)、「行政の審議委員などに女性委員を増やす」(27.5%)が3割前後で最も多く、ついで「女性が学習・研修・能力開発をする機会を充実させる」(23.2%)、「行政・企業の管理職に女性を増やす」(21.2%)、「自治会など地域団体の長や役員に女性を増やす」(20.8%)が2割強で続き、意見は多岐にわたっている。

(8) DV (ドメスティックバイオレンス) の有無について

◆「大声でどなられた」が『あった』は23.5%と約4人に1人の割合

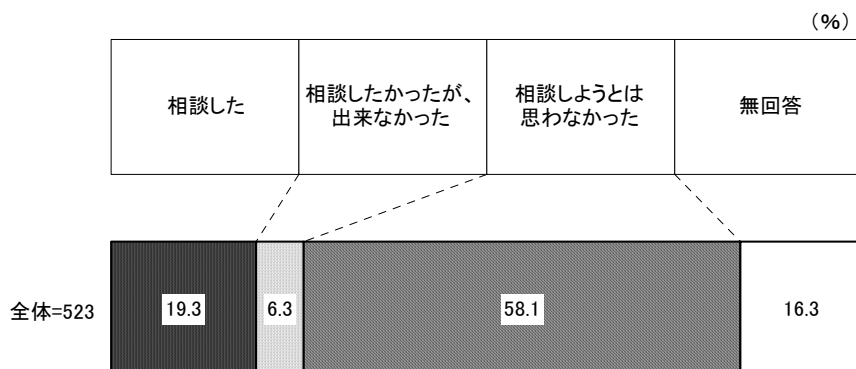
配偶者やパートナーからのDV (ドメスティックバイオレンス) については、『あった』(「何度もあった」、「1、2度あった」と回答した割合) が最も多いのは、「大声でどなられた」で23.5%と約4人に1人の割合となっている。「何を言っても長時間無視された」「物を投げつけられた」「殴られたり、蹴られたりした」についても『あった』とする人が1割強みられる。



(9) DV (ドメスティックバイオレンス) についての相談の有無

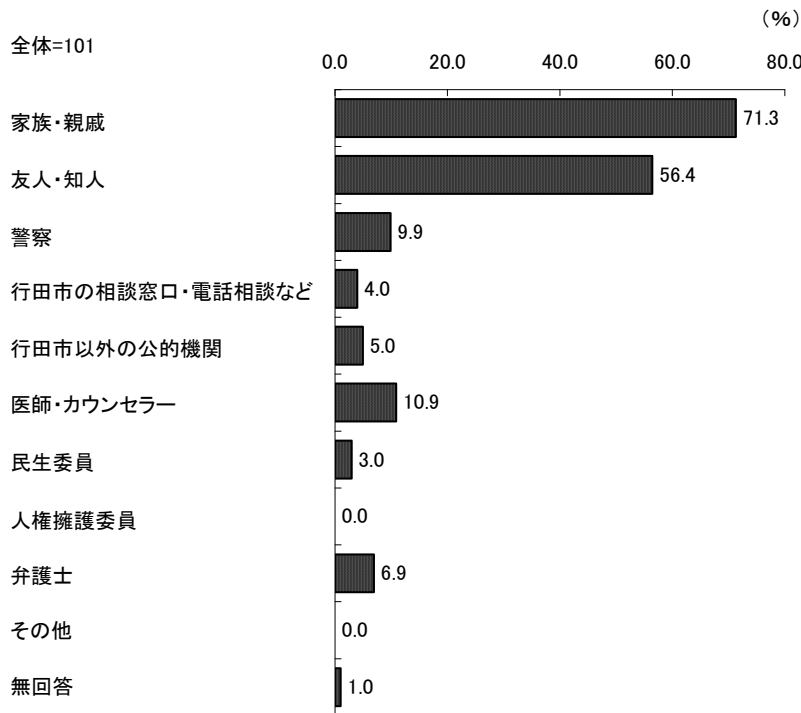
◆「相談した」は19.3%

DV (ドメスティックバイオレンス) について、「相談しようとは思わなかった」が58.1%と半数以上を占め、「相談した」は19.3%となっている。



(10) DV (ドメスティックバイオレンス) についての相談相手 (複数回答)

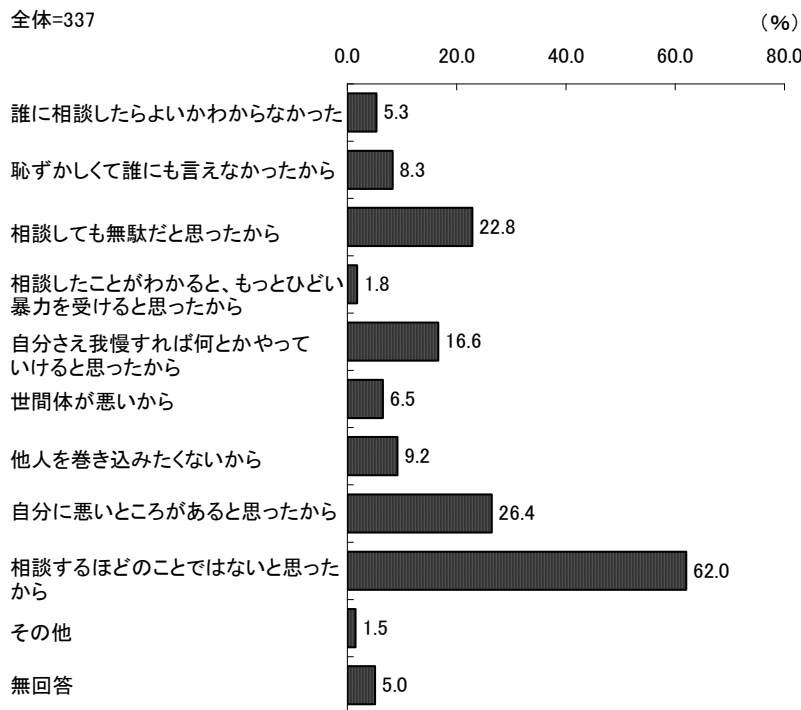
◆「家族・親戚」71.3%、「友人・知人」56.4%



DV (ドメスティックバイオレンス) についての相談相手は、「家族・親戚」が 71.3%と多数を占め、ついで「友人・知人」が 56.4%となっている。

(11) DV (ドメスティックバイオレンス) について相談できなかった理由 (複数回答)

◆「相談するほどのことではないと思ったから」が62.0%

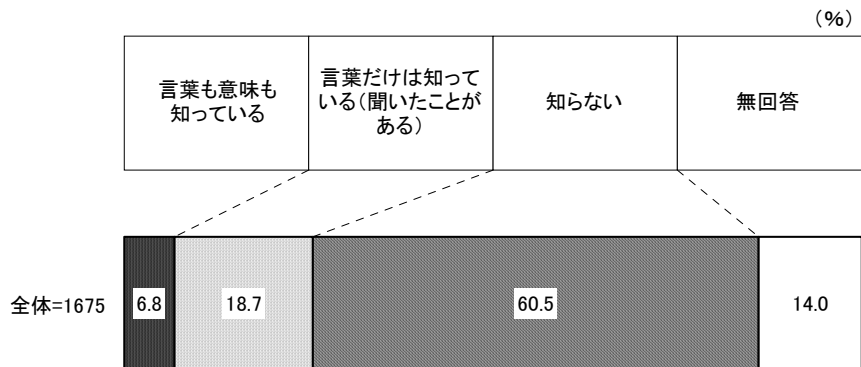


DV (ドメスティックバイオレンス) について相談できなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が 62.0%と群を抜いて多く、ついで「自分に悪いところがあると思ったから」(26.4%)、「相談しても無駄だと思ったから」(22.8%)、「自分さえ我慢すれば何とかやっつけられると思ったから」(16.6%) となっている。

(12) 「ワーク・ライフ・バランス」の認知状況

◆認知率は25.5%

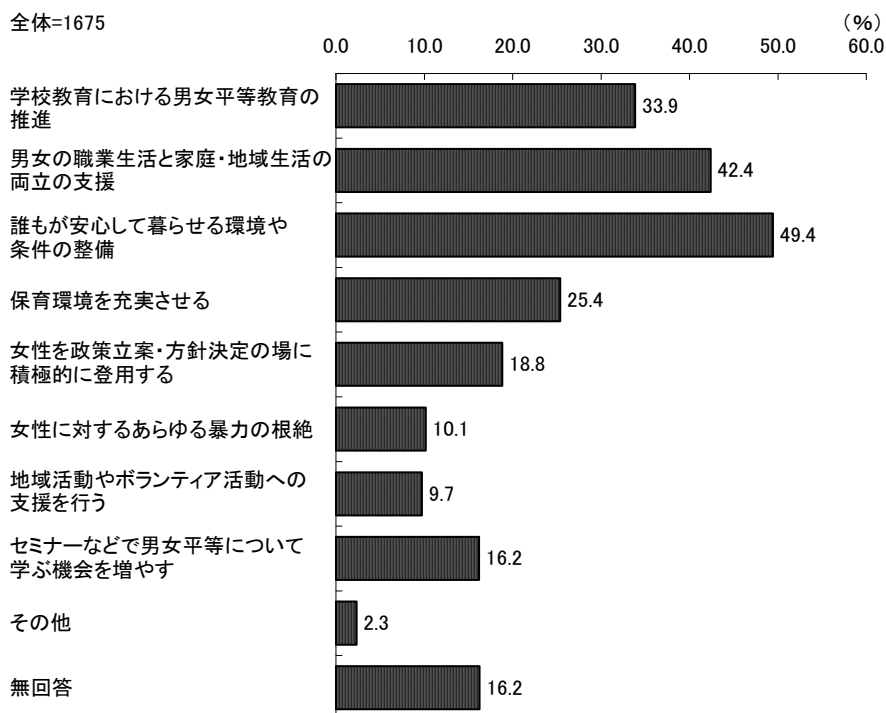
「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を「知らない」が60.5%を占め、「言葉も意味も知っている」は6.8%にとどまり、「言葉だけは知っている(聞いたことがある)」(18.7%)を合わせると25.5%の認知率となっている。



(13) 男女共同参画社会の実現のために重要なこと(複数回答)

◆「誰もが安心して暮らせる環境や条件の整備」「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援」が40%台

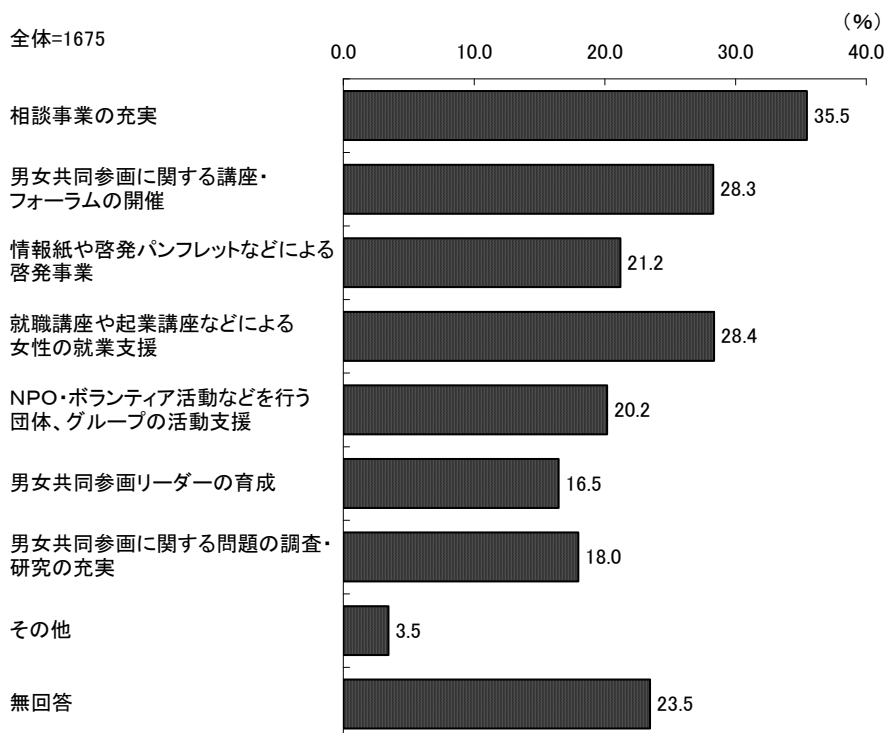
男女共同参画社会の実現のために重要なことは、「誰もが安心して暮らせる環境や条件の整備」(49.4%)と「男女の職業生活と家庭・地域生活の両立の支援」(42.4%)が40%台と最も多く、ついで「学校教育における男女平等教育の推進」(33.9%)、「保育環境を充実させる」(25.4%)が続いている。



(14)「VIVAぎょうだ」に期待すること（複数回答）

◆「相談事業の充実」「就職講座や起業講座などによる女性の就業支援」「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」「情報紙や啓発パンフレットなどによる啓発事業」「NPO・ボランティア活動などを行う団体、グループの活動支援」など要望は多岐にわたる

男女共同参画推進センター「VIVAぎょうだ」に期待することは、「相談事業の充実」（35.5%）、「就職講座や起業講座などによる女性の就業支援」（28.4%）、「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」（28.3%）、「情報紙や啓発パンフレットなどによる啓発事業」（21.2%）、「NPO・ボランティア活動などを行う団体、グループの活動支援」（20.2%）など要望は多岐にわたっている。

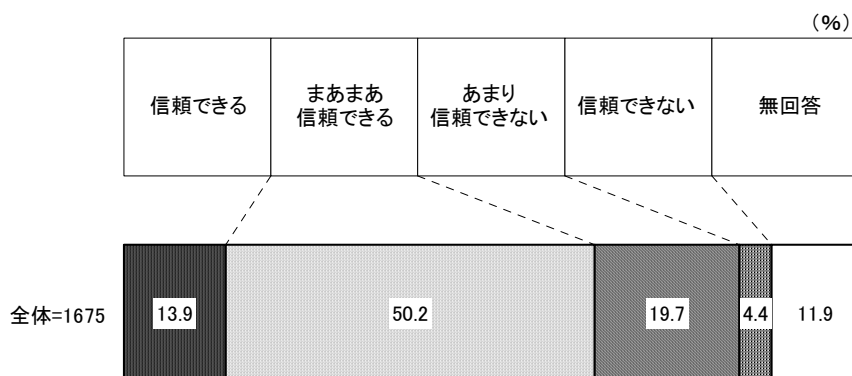


5. 市政や市役所について

(1) 行政への信頼度

◆『信頼派』64.1%、『非信頼派』24.1%

行政への信頼度は、「信頼できる」（13.9%）と「まあまあ信頼できる」（50.2%）を合わせた『信頼派』は64.1%、「あまり信頼できない」（19.7%）と「信頼できない」（4.4%）を合わせた『非信頼派』は24.1%となっている。

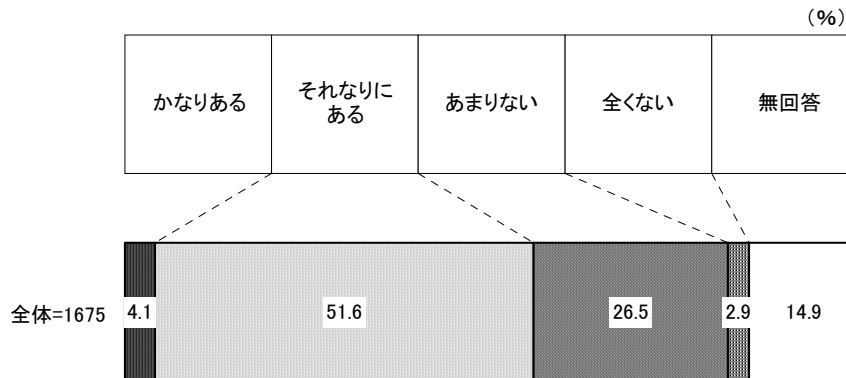


(2) 各種施策の実行能力

◆ 『実行能力がある』 55.7%、 『実行能力がない』 29.4%

各施策の実行能力は、「それなりにある」が 51.6%と半数を占め、「かなりある」(4.1%) を合わせると 55.7%が『実行能力がある』としている。

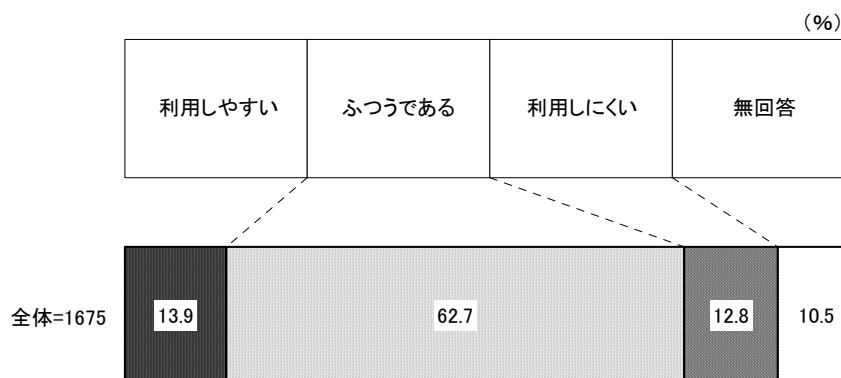
一方、「あまりない」(26.5%) と「全くない」(2.9%) を合わせた『実行能力がない』とする人は 29.4%と約 3 人に 1 人の割合となっている。



(3) 市役所の利用しやすさ

◆ 「ふつうである」 62.7%

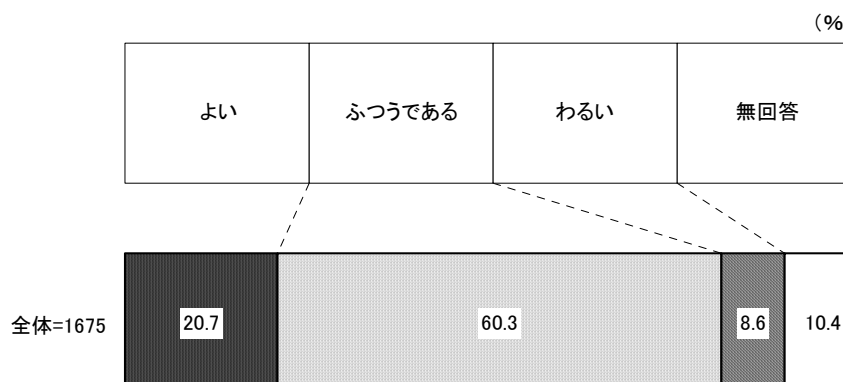
市役所の利用しやすさは、「ふつうである」が 62.7%と多数を占めている。「利用しやすい」は 13.9% 「利用しにくい」は 12.8%となっている。



(4) 窓口の対応

◆ 「ふつうである」 60.3%

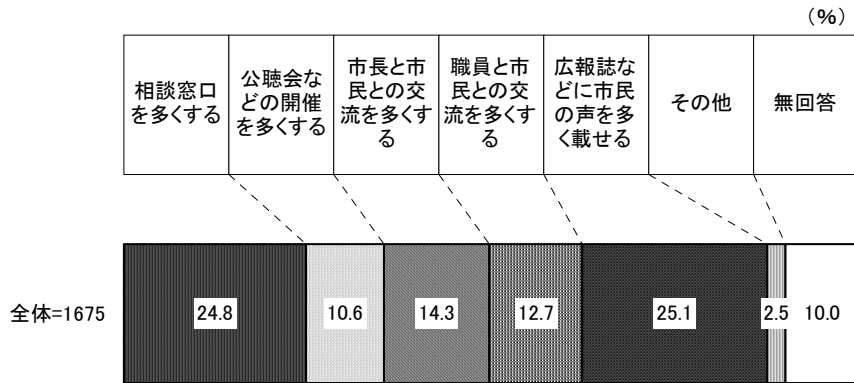
窓口の対応は、「ふつうである」が 60.3%と最も多くなっている。「よい」は 20.7%、「わるい」は 8.6%となっている。



(5) 市民の声を反映しやすくするために必要なこと

◆「広報紙などに市民の声を多く載せる」と「相談窓口を多くする」が25%

市民の声を反映しやすくするために必要なことは、「広報紙などに市民の声を多く載せる」(25.1%)と「相談窓口を多くする」(24.8%)が25%と最も多く、ついで「市長と市民との交流を多くする」(14.3%)、「職員と市民との交流を多くする」(12.7%)、「公聴会などの開催を多くする」(10.6%)となっている。

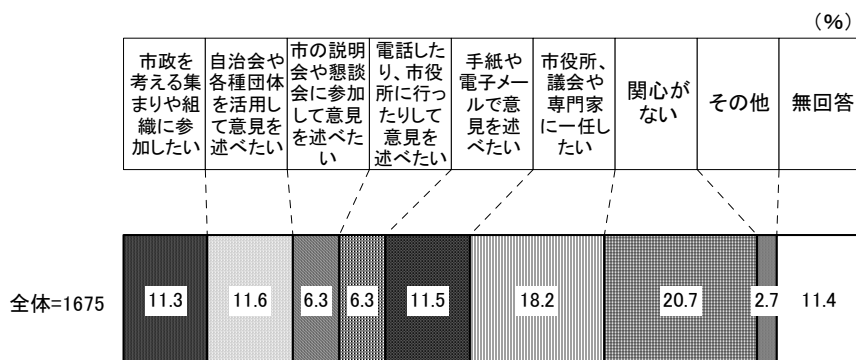


(6) 市政への参加について

◆何らかの形で参加や意見を述べたいとする人が47.0%

市政への参加については、「自治会や各種団体を活用して意見を述べたい」(11.6%)、「手紙や電子メールで意見を述べたい」(11.5%)、「市政を考える集まりや組織に参加したい」(11.3%)、「市の説明会や懇談会に参加して意見を述べたい」(6.3%)、「電話したり、市役所に行ったりして意見を述べたい」(6.3%)と何らかの形で参加や意見を述べたいと考える人が約半数となっている。

一方、「関心がない」(20.7%)と「市役所、議会や専門家に一任したい」(18.2%)とする人は38.9%となっている。

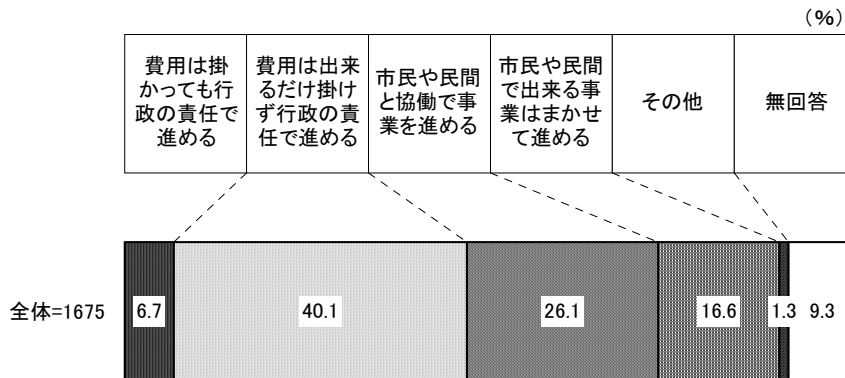


(7) 今後の行政運営について望ましいと思う方向

◆『行政の責任で進める』が46.8%

今後の行政運営について望ましいと思う方向については、「費用は出来るだけ掛けず行政の責任で進める」が40.1%と最も多く、「費用は掛かっても行政の責任で進める」(6.7%)を合わせると46.8%が『行政の責任で進める』としている。

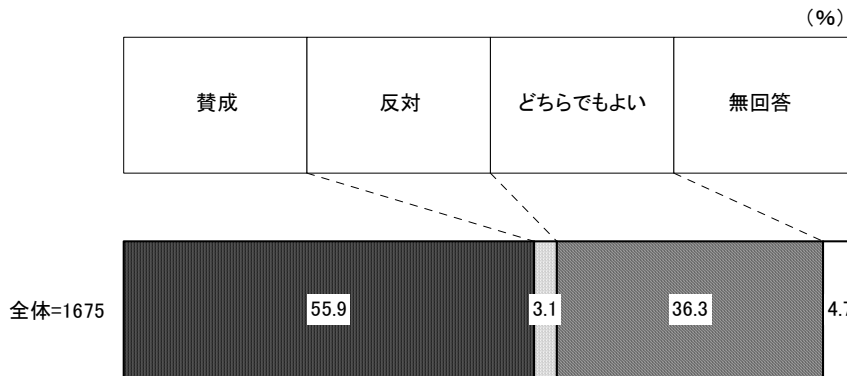
一方、「市民や民間と協働で事業を進める」は26.1%、「市民や民間で出来る事業はまかせて進める」は16.6%となっている。



(8) 古代蓮（行田蓮）を第2の市の花にすることについて

◆「賛成」55.9%、「反対」3.1%、「どちらでもよい」36.3%

古代蓮（行田蓮）を第2の市の花にすることについては、「賛成」が55.9%と半数強を占めている。一方、「反対」は3.1%と少ないが、「どちらでもよい」とする人も36.3%と4割近くとなっている。



行田市民意識調査 報告書
(概要版)

発行日／平成21年9月

発行／行田市 総合政策部 広報広聴課

〒361-8601 埼玉県行田市本丸2-5

TEL.048-556-1111

印刷／株式会社 ぎょうせい
